

工 事 名 : 川田浄水場第 1 期拡張工事 (土木建築)

位 置 : 国 頭 郡 東 村 字 川 田 地 内

工 事 図 面

- 緩 速 ろ 過 池 -

令 和 6 年 度

東 村 役 場 建 設 環 境 課

図 面 目 録

(土 木 建 築) 緩 速 ろ 過 池

図 面 目 録			
番 号	図 面 名 称	番 号	図 面 名 称
2 5 - 0 1	建築工事特記仕様書 (1/4)	2 5 - 2 1	配 筋 図 (7 / 11)
2 5 - 0 2	建築工事特記仕様書 (2/4)	2 5 - 2 2	配 筋 図 (8 / 11)
2 5 - 0 3	建築工事特記仕様書 (3/4)	2 5 - 2 3	配 筋 図 (9 / 11)
2 5 - 0 4	建築工事特記仕様書 (4/4)	2 5 - 2 4	配 筋 図 (10 / 11)
2 5 - 0 5	位置図・全体配置図	2 5 - 2 5	配 筋 図 (11 / 11)
2 5 - 0 6	構 造 図 (1 / 2)		
2 5 - 0 7	構 造 図 (2 / 2)		
2 5 - 0 8	詳 細 図 (1 / 3)		
2 5 - 0 9	詳 細 図 (2 / 3)		
2 5 - 1 0	詳 細 図 (3 / 3)		
2 5 - 1 1	構造設計特記仕様書		
2 5 - 1 2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1/3)		
2 5 - 1 3	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2/3)		
2 5 - 1 4	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3/3)		
2 5 - 1 5	配 筋 図 (1 / 11)		
2 5 - 1 6	配 筋 図 (2 / 11)		
2 5 - 1 7	配 筋 図 (3 / 11)		
2 5 - 1 8	配 筋 図 (4 / 11)		
2 5 - 1 9	配 筋 図 (5 / 11)		
2 5 - 2 0	配 筋 図 (6 / 11)		

建築工事特記仕様書 [建築工事編] 沖縄県土木建築部

令和5年7月改定版

1 工事概要

(1) 工 事 名 : 川田浄水場第1期拡張工事(緩速ろ過池)

(2) 工 事 場 所 : 国頭郡東村字川田地内 (地域地区等: 都市計画区域外 未指定)

(3) 敷 地 面 積 : m²

(4) 工 事 種 目 :

ア 建築物			
建築物の名称			
主要用途	浄水場		
構造及び階数	RC造地下1階 地上1階		
工事種別	新築		
建築面積	258.83	m ²	m ²
延べ面積	289.62	m ²	m ²
イ 工作物及び立木			
工作物等の名称			
数量			

2 本工事の設計時期

本工事の設計書は、令和 年 月時点での沖縄県土木建築部建築工事積算基準及び公共工事設計労務単価等に基づいて作成している。

3 建築工事仕様

(1) 標準仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」[令和4年版]（以下「標準仕様書」という。）による。

(2) 特記仕様
ア 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
イ 特記事項は、「・」に○印の付いたものを適用する。
「・」に○印がつかない場合は「※」のついたものを適用する。
「・」と「※」に○印がついた場合は共に適用する。
ウ 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
エ 特記事項に記載の（参- ）は、標準仕様書の参考資料4各部配筋参考図の当該項目を示す。

4 その他

(1) 公共事業労務費調査に対する協力
ア 本工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合、調査票等に必要事項を正確に記入し、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。
イ 調査票等を提出した事業所を事後に訪問して行う調査・指導等の対象になった場合、その実施に協力しなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。
ウ 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに、賃金台帳を調製・保存する等、日頃より雇用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかななければならない。
エ 本工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）がアからウまでと同様の義務を負う旨を定めなければならない。

(2) 暴力団員等による不当介入の排除対策
受注者は、当該工事の施工に当たって「沖縄県土木建築部発注工事における暴力団員等による不当介入の排除手続きに関する合意書（平成19年7月24日）」に基づき、次に関する事項を遵守しなければならない。なお、違反したことが判明した場合は、指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処するものとする。
ア 暴力団員等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに監督員に報告するとともに、所轄の警察署等に被害の届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
イ 暴力団員等から不当要求による被害又は工事妨害を受けた場合は、速やかに監督員に報告するとともに所轄の警察署等に被害の届出を行うこと。
ウ 暴力団員等に対する排除対策を講じたにもかかわらず、工事に遅れが生じるおそれがある場合は、速やかに監督員と工程に関する協議を行うこと。

(3) ワンデーレスポンスの実施
ア この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。
「ワンデーレスポンス」とは、監督員が、受注者からの質問、協議の回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応することである。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることである。
イ 受注者は計画工程表の提出に当たって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督員と協議を行うこと。
ウ 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督員へ報告すること。
エ 効果・課題等を把握するためアンケート調査等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

(4) 工事監理業務への協力等
ア 本工事の工事監理業務（建築工事監理業務委託契約に基づき、建築士法第2条第8項並びに同法第18条第3項に掲げる工事監理を行う業務をいう。以下同じ。）は、別途委託契約を締結することとしており、本工事の現場代理人等は、当該工事監理業務の履行に協力すること。

- (4) 工事監理業務への協力等
イ 工事監理業務の受注者が配置した管理技術者、主任担当技術者並びに担当技術者（以下「管理技術者等」という。）の氏名等は、発注者から通知する。なお、管理技術者等は本工事に関する指示・承諾・協議の権限は有しない。
ウ 設計図書において監督員に提出することとなっている書類は、原則として管理技術者等に提出すること。
エ 建設業法第23条の2の規程に基づく工事監理に対する報告の書類は、監督員に提出すること。
- (5) 本工事の請負代金額の変更協議をする場合及び本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合の取扱いについて
本工事の請負代金額の変更協議をする場合又は本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合にあたって、変更協議または関連する工事の予定価格の算定は、本工事の請負比率（元契約額÷元設計額）を変更設計額または関連工事の設計額に乗じた額で行う。
- (6) 県産資材の優先使用
本工事に使用する資材等のうち、沖縄県内で生産、製造され、かつ、規格、品質、価格等が適正である場合はこれを優先して使用するよう努めなければならない。なお、主要建設資材の使用状況を「県産建設資材使用状況報告書」にて報告すること。
- (7) 下請業者の県内企業優先活用
請負業者は、下請契約の相手方を県内企業（主たる営業所を沖縄県内に有する者。）から選定するように努めなければならない。
- (8) 不発弾等発見時の処理について
本工事において、不発弾等が発見された場合には、警察署（交番、駐在所）に報告すると共に、監督員を通して関連市町村（防災主管課）、沖縄県知事公室防災危機管理課及び沖縄県土木建築部技術・建設業課に報告すること。
また、発見された不発弾等については、警察署または自衛隊より指示等があるまでは、触れずにそのままの状態で保存すること。
なお、これについては、下請業者へも周知すること。
- (9) ダンプトラック等の過積載等の防止について
ア 工事用資機材等の積載超過がないようにするとともに交通安全管理を十分に行うこと。
イ 過積載を行っている資材納入者から資材購入をしないこと。
ウ 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することのないようにすること。
エ さし枠の装置または物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に出入りすることがないようにすること。
オ 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止に関する特別措置法（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等の加入者の使用を促進すること。
カ 下請契約の相手方又は資材納入者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。
キ アからカの事につき、下請契約における受注者を指導すること。
- (10) 不正軽油の使用の禁止等について
ア 受注者は、工事の施工に当たり、工事現場で使用し、若しくは使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）又は建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32の規定に違反する燃料をいう。）を使用し、又は使用させてはならない。
イ 受注者は、県の税務当局が実施する使用燃料の抜取調査に協力しなければならない。
- (11) 設計図書における資材等の取扱いについて
ア 本工事の設計図書及び参考図に示す資材等については、特定企業の製品又は工法を指定するものではない。
イ 本工事で使用する資材等については、設計図書及び参考図のとおり品質規格・仕様等で積算しており、その品質規格・仕様等と同等級以上の資材を使用すること。なお、使用にあたっては監督職員の承諾を得るものとする。
ウ 「参考図」は建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書ではなく、発注者の積算の透明性を確保し入札者の積算、工事費内訳書作成の効率化を図ることを目的に「参考資料」として提示するものである。
- (12) ガイドライン等の遵守について
設計変更等については、契約書18条から24条に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン（営繕工事編）」（沖縄県土木建築部）によるものとする。
- (13) 本工事の予定価格に占める法定福利費概算額について
ア 受注者は、契約締結後15日以内に、監督員を経由して請負代金内訳書を提出し、請負代金内訳書には、工事現場に従事する現場労働者に係る社会保険料（健康保険、厚生年金保険及び雇用保険をいう。）の内の事業主が納付義務を負う保険料（以降「法定福利費」という。）を明示すること。
また、明示する法定福利費の算出に当たっては、各専門工業業団体が作成した標準見積書に沿って作成された法定福利費を内訳明示した下請企業の見積りの活用等の方法により適正に見積ることが必要であり、「法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順」に準拠する等により適切に算出すること。
- イ 発注者は、受注者から提出された請負代金内訳書に明示された法定福利費と予定価格に占める法定福利費概算額について確認を行い、「一定以上の乖離がある場合」は、受注者に対して説明を求め、場合によっては、建設業法第19条の3に違反するおそれがないか確認します。
【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順（国土交通省HP）】
https://www.mlit.go.jp/common/001090440.pdf
【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順（簡易版）（国土交通省HP）】
https://www.mlit.go.jp/common/001203247.pdf
【各団体が作成した標準見積書（国土交通省HP）】
ホーム>政策・仕事>土地・建設産業>建設産業・不動産業>各団体が作成した標準見積書
https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo_const_tk2_000082.html

章	項 目	特 記 事 項
① 一般共通事項	① 適用基準等	○ 建築工事監理指針（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ○ 建築工事標準詳細図（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・ 敷地調査共通仕様書（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部 ○ 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿（令和4年版）（一社）公共建築協会 ○ 営繕工事写真撮影要領（令和5年版） ・ 磁気探査実施要領（令和2年1月）沖縄県土木建築部 ○ 沖縄県土木建築部における公共建設工事の分別解体・再資源化および再生資源活用に関する実施要領（平成25年12月）沖縄県土木建築部 ○ 構造計画・施工計画・建築設備計画の留意事項（令和4年4月）沖縄県土木建築部 登録する。ただし、工事請負代金額が500万円未満の工事については、登録を要しない。
	② 工事実績情報の登録（1.1.4）	工事の一時中止に係る計画の作成 (1) 契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。 (2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。
	3 工事の一時中止に関する事項（1.1.9）	・ 余裕期間を設定する工事 【 方式】 【以下から選択：発注者指定方式／任意着手方式／フレックス方式】 (1) 本工事は余裕期間として【 日間】を設定した工事である。 なお、余裕期間の設定にかかる積算上の割増は考慮しない。 (2) 余裕期間制度のうち、任意着手方式、フレックス方式において、受注者は、余裕期間内の任意の日を工事の始期と定めることができる。 このため、受注者は、落札結果通知を受けた日の翌日までに「工期通知書（様式－1）」を作成し、発注者（契約担当者）に通知（提出）すること。 (3) その他事項は、「余裕期間を設定する工事実施要領」による。
	4 工事の余裕期間	図示された範囲は【令和 年 月 日】までに完了すること。
	5 概成工期（1.2.1）	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 (1) 風速：V0＝ 46 m/s （平12建告第1454号第2） (2) 地表面粗度区分：（Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ） （8.4.3）（8.5.3）（9.4.4）（10.5.3）（13.2.3） （13.3.3）（13.4.3）（14.7.3）（16.14.5）（23.5.4）
⑥ 品質計画等（1.2.2）	(1) 施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。 (2) 現場代理人等は、施工に先立ち、各工事間の施工計画を調整、検討するため、各室の平面図、展開図、天井伏図（各1/50程度）及び必要な部位の断面図を作成の上、各工事の必要な内容を記載した総合図を作成する。なお、総合図は監督員に提出し、確認を受ける。 (3) 施工計画書及び施工図等は監督員の指示する時期に提出する。ただし監督員の指示がない場合は、原則として施工計画書は契約後30日以内、施工図等は工事着手前までに提出し、承諾を受ける。	
⑧ 工事の記録（1.2.4）	沖縄県土木建築部工事関係標準様式を用いる。	
⑨ 電気保安技術者（1.3.3）	電気工作物の工事を行う場合、その工事期間において電気保安技術者を配置し、保安業務を行うこと。	
⑩ 施工条件（1.3.5）	施工順序等の制約 ・ 無し ・ 有り【 ・ 現場説明書による ・ 図示 ・ 】 工事車両の駐車場所 : ・ 図示 ・ 現場説明書による 資材、機材置場 : ・ 図示 ・ 現場説明書による 建設発生土の仮置場 : ・ 図示 ・ 現場説明書による その他の施工条件 : ・ 図示 ・ 現場説明書による	

⑪ 施工中の安全確保及び環境保全等（1.3.7）（1.3.10）

12 交通安全管理（1.3.8）

⑬ 発生材の処理等（1.3.11）

(1) 「低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規程」（平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正平成13年4月9日 国土交通省告示第487号）による建設機械を使用する。

(2) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は原則として「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付け建設省経機発第249号最終改正平成22年3月18日付け国総施設第291号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
一般工事用建設機械（ディーゼルエンジン出力7.5～260kW）
ア バックホウ
イ 車輪式トラクタショベル
ウ フルドーザ
エ 発動発電機
オ 空気圧縮機
カ 油圧ユニット（基礎工事用機械で独立したもの）
キ ローラークレーン
ク ホイールクレーン

国道6路線及び県道7路線における警備業者が交通誘導警備業務を行う場合は、一級又は二級検定合格警備員を配置すること。
（令和3年2月19日 沖縄県公安委員会告示第38号）

(1) マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。

	発生材の種類
発注者に引き渡すもの	
特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法	
現場において再利用を図るもの	

(2) 本工事により発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税（沖縄県産業廃棄物税）が課税されるので、適正に処理すること。

(3) 受注者は、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」（COBRIS）により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出しなければならない。
また、受注者は、その計画書に従い建設廃棄物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時に「建設副産物情報交換システム」（COBRIS）により作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出しなければならない。

(4) 受注者は、工事で発生した建設廃棄物について、ゆくいくる材の認定を受けた施設又はゆくいくる材の認定を受けていないが、再資源化後にゆくいくる材製造業者へ出荷している施設へ搬出すること。ただし、島内に当該施設がない場合はこの限りではない。

(5) 本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、前に掲げる施設のうち、受入条件の合う中から運搬費と処分費（平日受入費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。

(6) アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について
ア 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体（以下、廃棄物という。）については、廃棄物吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。
「適正に処理」とは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（請負業者）が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報（成分性状等）を処理業者に提供することが必要である。なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。
http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/seibi/sangyo/asufaruto.html
なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。

イ 発生する濁水(汚濁)に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について(通知)(平成24年3月28日付け土技第1257号)」に基づき、適正に処理すること。

ウ 発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱いについて(通知)(平成25年1月17日付け土技第942号)」に基づき、適正に処理すること。

位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築) 緩速ろ過池		
測量年月		図面	建築工事特記仕様書（1/4） NO SCALE
測 量		説 明	
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 1 葉		

①
一般共通事項
へ
続
き
▼

⑭
主任技術者・監
理技術者

(1) 工事請負代金額が4,000万円以上（建築一式工事の場合8,000万円以上）の工事については、主任技術者又は監理技術者を現場ごとに専任で配置する。なお、専任を要しない期間は、次のとおりとする。

ア 現場施工に着手するまでの期間

【現場施工に着手する日が確定している場合】
請負契約の締結の日の翌日から令和 年 月 日までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任は要しない。

【現場施工に着手する日が確定していない場合】
請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、工事施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。

イ 検査終了後の期間

工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている契約工期中の期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。

(2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について

ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者と入札執行日以前に3ヵ月以上の雇用関係が成立していなければならない。

イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類（健康保険被保険者証等の写し）を提出しなければならない。

⑮
主任技術者等
の資格

(1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者等の資格は、以下による。

・ 1級建築士、又は1級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの

・ 1級建築士、2級建築士、1級建築施工管理技士、又は2級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの

ア 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有すること。

イ 配置予定技術者にあつては、入札開始日前に3ヵ月以上の直接的かつ恒常的な雇用関係があること。

ウ 配置予定技術者の専任を要しない期間については、設計図書等で確認すること。

(2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。

⑯
監理技術者の
兼務（特例監理
技術者の配置）

※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（特例監理技術者）の配置を認める。この場合の要件は、現場説明書による。

・ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（特例監理技術者）の配置を認めない。

⑰
工事の保険等

(1) 次の工事関係保険に加入すること。なお、保険の加入期間は、原則として工事着工日から工事完成期日後14日以上とする。

【・火災保険・建設工事保険・組立保険・請負業者賠償責任保険】

(2) 建設労災補償金済又はこれに準ずる共済、保険に加入し、契約後1月以内に加入を証明する書類を発注者に提出する。

(3) 建設業退職金共済制度に加入し、次の項目を遵守すること。

ア 掛金収納書を契約後原則ヶ月以内（電子申請方式による場合にあっては契約後原則40日以内）に発注者に提出する。

イ 当該建設現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」標識を掲示する。

ウ 未加入下請事業者に対する加入を指導する。

エ 工事完成後、速やかに掛金充当実績総括表を作成し、検査職員に提示しなければならない。

⑱
ゆいくる材につ
いて

(1) 本工事で使用するリサイクル資材は、特定建設資材廃棄物を原材料とするゆいくる材に限り、原則「ゆいくる材」とする。それ以外を原材料とするゆいくる材は率先して使用することとする。ただし、ゆいくる材がない離島等での工事の場合は、ゆいくる材以外の再生資材を使用できる。なお、ゆいくる材以外の再生資材を使用する場合も「ゆいくる材品質管理要領」に準じて品質管理を実施すること。また、ゆいくる材の在庫がない等により使用することができない場合は、新材を使用すること。

(2) ゆいくる材の品質管理

ア ゆいくる材の品質管理にあたっては、「標準仕様書」等のほか「ゆいくる材品質管理要領」に基づいて行うこと。

イ 受注者は、工事請負代金額が 500万円以上でゆいくる材を使用する場合、着手後に一般財団法人沖縄県建設技術センターあてに「ゆいくる材品質管理依頼」を行い、必要書類の交付を受けなければならない。

ウ 受注者は、路盤材のサンプル送付試験のサンプル採取及び現場への資材初回搬入時と敷き均し転圧完了後の現場簡易試験を監督員の立会の下、実施しなければならない。

エ 受注者は、路盤材の現場簡易試験が終了した場合、速やかに監督員に試験結果を報告しなければならない。

⑲
技能士（1.5.2）

20 化学物質の濃
度測定（1.5.9）

⑳
完成時の提出
図書
（1.7.1）（1.7.2）
（1.7.3）

⑳
設計図CAD
データの貸与

㉑
情報共有シス
テム

㉒
墜落制止用器
具

25 「労務費見積
り
尊重宣言」促進
モデル工事

26 建設キャリア
アップシステ
ム（CCUS）活用
について

適用工事種別

技能検定作業

鉄筋工事

○鉄筋施工（鉄筋加工組立作業）

コンクリート工事

○型枠施工 ○コンクリート圧送施工

防水工事

○シーリング防水 ・防水施工全般

左官工事

○左官

塗装工事

○塗装

(1) 測定時期、測定対象室及び測定箇所数

測定対象室

測定箇所数

測定時期

備考

(2) 測定対象化学物質が濃度計針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡は受けない。

※完成図 ※保全に関する資料

(1) 本工事の完成時の提出図書は、「宮縄工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領（案）」による。

(2) 完成図は、（表1.7.1）に次表を含むものとする。

種類

記入内容

詳細図

監督員との協議による。

(3) 本工事は電子納品対象工事とする。

電子納品とは、調査、設計、工事などの各段階の最終成果を電子データで納品することという。ここでいう電子データとは、各種電子納品要領・基準等（以下、「要領」）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

なお、書面における署名又は押印の取り扱いについては、別途監督員と協議するものとする。

(4) 工事完成図書は、「要領」に基づいた電子データとなっているか（一財）沖縄県建設技術センターにて確認を受け、「電子納品確認登録証」の発行を受けること。

業務成果品（工事完成図書）は、電子媒体（CD-R等）で（正）1部提出すること。

「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化のファイルフォーマットを決定すること。

なお、「紙」による提出物は、監督員と協議の上決定すること。

(5) 受注者は、完成通知書の添付書類として以下の書類及び電子データを監督員に提出しなければならない。

ア ゆいくる材利用状況報告書

イ ゆいくる材出荷量証明書

(6) 建築物等の利用に関する説明書について

・「建築物等の利用に関する説明書」を作成する。作成の手引き（国土交通省ホームページに掲載）を参考にして、記載事項は監督員との協議により決定する。

(7) 受注者は、監督員より「長期保全計画書」の作成の指示があった場合、これを作成し監督員に提出しなければならない。

なお、この計画書の内容等は監督員との協議により決定する。

本工事は発注者から受注者に対し設計図CADデータを貸与する。なお、貸与されたCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。

(1) 現場事務所等に、情報共有システムが使用可能な以下に示す程度のインターネット環境を整えること。なお、現場条件等により当該整備が不可能な場合は、監督員と協議すること。

【インターネット環境】：ブロードバンド回線

【パソコンOS】：Microsoft Windows 8.1/10

【推奨ブラウザ】：Microsoft Edge

情報共有システムとは、工事期間中において受発注者間でインターネットを介して協議簿、図面等の各種データのやり取りを行い、情報共有サーバーを用いてそれらのデータを共有・交換するものである。

(2) 受注者は、沖縄県CALSシステムの利用にあつては、沖縄県とCALS運営会社で定めた使用承諾料を沖縄県CALSシステムを運営している者に支払うこと。

(3) 沖縄県CALSシステムの使用許諾料を支払ったときは、速やかに監督員に支払いの事実を報告し、確認を受けること。（支払いの事実を証明する書類（銀行振り込みの写し等）を提出）

・墜落制止用器具は、フルハーネス型とする。ただし、墜落時に着用者が地面に到達するおそれのある場合は、胴ベルト型の使用を認めるものとする。また、墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日付け基発0622第2号）を遵守すること。

・ 本工事は、「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事の対象工事である。

実施については、「沖縄県「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事試行要領」及び「「労務費見積り尊重宣言」実施要領」（2018.12.21 日本建設業連合会）等を参照し実施するものとする。

・ 本工事は、建設キャリアアップシステム（以下「CCUS」という。）活用工事の試行対象であり、実施については、受注者における希望型とする。

受注者は、工事着手前までにCCUS活用について、実施の有無を工事打合簿にて発注者へ報告するものとする。

実施については、「沖縄県 建設キャリアアップシステム（CCUS）活用工事試行要領」及び「建設キャリアアップシステム現場運用マニュアル」（一般財団法人建設業振興基金）等を参照し実施するものとする。

②
仮設
工事

① 工事用水

② 工事用電力

③ 環境対策につ
いて

④ 足場その他
（2.2.4）

⑤ 監督員事務所
（2.3.1）

③
土工
事

① 埋戻し及び盛土
（3.2.3）（表3.2.1）

② 建設発生土の
処理
（3.2.5）

④
地業
工事

① 載荷試験
（4.2.3）（4.2.4）

2 杭地業

構内既存の施設：【○利用不可・利用できる（・有償・無償）】

構内既存の施設：【○利用不可・利用できる（・有償・無償）】

(1) 受注者は、本工事の施工にあたり、「沖縄県赤土等流出防止条例」、「水質汚濁防止法」及びその他環境保全に関する法令等を遵守し、その対策については工事着手前に現場状況の調査、検討を十分に行い、監督員の確認を得た上で施工すること。

(2) 赤土等流出防止対策を行う場合、その対策範囲は図示による。

・ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

規模（㎡）

床

仕上げ

内壁・天井

屋根

備品の種類及び数量

埋戻し及び盛土の種類：

【・ A種 適用場所（ ）

○ B種 適用場所（ ）

・ C種 適用場所（ ）

土質（ ） 受渡場所（ ）

・ D種 適用場所（ ）】

建設発生土の処分は次による。

※ 構外搬出適切処理

搬出先名称（ ）

搬出先所在地（ ）

運搬距離（ km ）

搬出先基準（条件）（ ）

・ 構内堆積 ・ 構内敷きならし

① 杭地業の種類と工法（4.3.1）（4.4.4）（4.5.1）

杭地業の種類

工法

・ 適心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）

・ セメントミルク工法

・ 特定埋設杭工法

・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）

・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）

・ 中掘り拡大根固め工法

・ （ ）工法

・ 鋼杭地業

・ アースドリル工法

・ （ ）工法

・ 場所打ちコンクリート杭地業

(2) 杭の寸法等（4.2.2）（4.3.3）（4.4.3）（4.5.4）

杭径

杭長（m）

種類

継手数

先端部の形状

備考

試験杭

位置は図示による

本杭

(3) 杭の品質等（4.3.4）～（4.3.8）（4.4.4）～（4.4.6）

設計支持力

推定支持力の算定方法

水平方向のずれ精度

継手工法

杭頭の処理

(4) 支持層（4.3.4）（4.3.5）（4.5.5）（4.5.6）

支持層の位置

支持層の種類

支持層への掘削深さ

支持層への根入れ深さ

(5) 場所打ちコンクリートにおける材料等（4.5.4）

ア 鉄筋

帯筋

鉄筋の最小かぶり厚さ

備考

【・（参－2.2）・図示】

イ セメントの種類【・普通ポルトランドセメント・図示】

ウ コンクリート

設計基準強度

種別

備考

砂利地業（4.6.3）

4 床下防湿層（4.6.5）

砂利地業の範囲、厚さは、図示による。

防湿層の範囲は、図示による。

⑤
鉄筋
工事

① 鉄筋（5.2.1）

2 溶接金網（5.2.2）

③ 継手及び定着（5.3.4）

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（5.3.5）

⑤ 各部配筋（5.3.7）

6 機械式継手

⑥
コン
クリ
ート
工事

① コンクリートの強度

② コンクリートの材料

③ コンクリートの強度試験

④ コンクリート打放し仕上げ（6.2.5）（6.8.1）

⑤ コンクリートの品質管理

⑥ 打継ぎ（6.6.4）

⑦ 型枠（6.8.1）（6.8.2）

8 軽量コンクリート（6.10.1）（6.10.2）

⑨ 暑中コンクリート

⑩ 品質確保

種類の記号

呼び名（mm）

備考

S0295A

○D10 ○D13 ○D16

S0345

○D19 ○D22 ○D25

網目の形状

寸法

鉄線の経

備考

(1) 継手の種類等

施工部位

継手の種類

備考（重ね継手の長さ等）

D16以下

重ね継ぎ手

D19以上

ガス圧接

(2) 柱、梁の主筋の継手を同一箇所にはける場合は、応力集中やコンクリートの充填性等について十分検討し、監督員の承諾を受けて施工すること。

(3) 鉄筋の定着長さ【※図示による。 ・ 】

(1) 軽量コンクリートの場合の最小かぶり厚さ：

(2) 塩害を受けるおそれのある部分等の位置及び最小かぶり厚さ：

(3) 機械式継手及び溶接継手の場合のあきの寸法：

施工箇所

配筋の方法

その他特記すべき事項

図示による

【・（参－ ）による。・図示】

【・（参－ ）による。・図示】

機械式継手の種類： ・ 図示

気乾単位容積質量による種類

類別等

設計基準強度（Fc）

施工部位

○ 普通コンクリート

※Ⅰ類

・ 軽量コンクリート

・ Ⅱ類

・ 普通コンクリート

※Ⅰ類

・ 軽量コンクリート

・ Ⅱ類

(6.2.1）（6.2.2）（6.2.3）（6.10.1）（6.13.1）（6.14.1）（6.15.1）

(1) セメントの種類

【※普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 】

(2) フライアッシュセメントB種の適用箇所： 【 ・ 図示 ・ 】

(3) 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・ B（6.3.1）

材齢28日圧縮強度の推定に用いる供試体は現場における「水中養生」とする。

仕上げの種別

打増し厚さ

施工部位

備考

B種

20mm

操作室外壁

工事に使用するコンクリートは事前に試し練りを行い、その品質等が設計図書の規定に適合していることを確認し、監督職員に報告する。

打継ぎ目地の寸法は、図示による。

(1) 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ【 ・ 20mm ・ （ ）mm 】

(2) ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は、図示による。

(3) MCR工法の適用： ・ 有り【使用箇所： ・ 図示 ・ 】

暑中コンクリートの適用は【 市 】の日平均気温の年平均値が25℃を超える【 月 日】から【 月 日】までとする。

(注) 適用する場合は、気象庁HPより日平均気温の年平均値を確認し、【 】を記載すること。

レディミキストコンクリートの品質確保については、「レディミキストコンクリートの品質確保について」（平成15年11月10日付け国営建第95号）及び「レディミキストコンクリートの品質確保について」の運用について」

位 置

国頭郡東村字川田地内

工 事 名

川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）縦速ろ過池

測量年月

図面

測 量

説明

設計

建築工事特記仕様書（2/4）

審 査

NO SCALE

課 長

課 長 補 佐

係

図面番号

25 葉 中 2 葉

7 鉄骨 工事	1 鋼材（7.2.1） （表7.2.1）	<table><tr><td>記号の種類</td><td>適用箇所</td><td>備考</td></tr><tr><td></td><td></td><td>形状及び寸法は、図示による。</td></tr></table>	記号の種類	適用箇所	備考			形状及び寸法は、図示による。	5 外壁パネル工法 （8.4.3）（8.5.3）	(1) 地震に対する安全性 設計用震度（KH） <table><tr><td>設計用震度</td><td>帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能</td></tr></table> 設計用水平震度（KH）※1.0・ 設計用鉛直震度（KV）※0.5・	設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能	11 ⑪ タイル 工事	① タイル （11.2.2）（11.3.2） 2 あと張り工法 （11.2.6）（11.3.7） （表11.2.3） （表11.3.2）	(1) タイルの種類 <table><tr><td>施工箇所</td><td>形状・寸法</td><td>うわぐすり</td><td>吸水率</td><td>役物</td><td>色</td><td>耐滑り性</td></tr><tr><td>階段</td><td>ノンスリップタイル</td><td>無釉</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) タイルの試験張り：【 ・ 行う ・ 行わない】 (3) タイルの見本焼き：【 ・ 行う ・ 行わない】 壁タイル張りの工法等 <table><tr><td>タイルの種類</td><td>大きさ</td><td>工法</td><td>張付け材料の種類、塗厚等</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理： 【 ・ MCR工法 ・ 目荒らし工法】	施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性	階段	ノンスリップタイル	無釉					タイルの種類	大きさ	工法	張付け材料の種類、塗厚等					12 木 工事	1 木材 （12.2.1） （表12.2.1） （表12.2.2）	(1) 木材（下地材）の含水率： ※A種 ・ B種 木材（造作材）の含水率： ※A種 ・ B種 (2) 製材 【 ・ 「製材の日本農林規格」による ・ 「製材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 下地用針葉樹製材 ・ 造作用針葉樹製材 ・ 広葉樹製材 ・ 】 <table><tr><td>施工箇所</td><td>樹種</td><td>寸法</td><td>等級又は品質</td><td>含水率</td><td>防虫処理</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (3) 造作用集成材 【 ・ 「集成材の日本農林規格」による ・ 「集成材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 造作用集成材 ・ 化粧ばり構造用集成材 ・ 】 <table><tr><td>施工箇所</td><td>樹種</td><td>寸法</td><td>等級又は品質</td><td>含水率</td><td>化粧薄板の厚さ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (4) 造作用単板積層材 【 ・ 「単板積層材の日本農林規格」による ・ 「単板積層材の日本農林規格」以外による】 <table><tr><td>施工箇所</td><td>厚さ</td><td>表面の品質</td><td>含水率</td><td>防虫処理</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (5) 合板等【 ・ 普通合板 ・ 構造用合板】 <table><tr><td>施工箇所</td><td>樹種</td><td>厚さ</td><td>品質、等級等</td><td>接着の程度</td><td>防虫・強度等</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (6) パーティクルボード <table><tr><td>施工箇所</td><td>厚さ</td><td>表裏面の状態</td><td>曲げ強さ</td><td>接着剤</td><td>難燃性</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (7) 構造用パネル <table><tr><td>施工箇所</td><td>厚さ</td><td>等級</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	防虫処理							施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	化粧薄板の厚さ							施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理						施工箇所	樹種	厚さ	品質、等級等	接着の程度	防虫・強度等							施工箇所	厚さ	表裏面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性							施工箇所	厚さ	等級							13 屋 根 及 び と い 工 事	1 長尺金属板葺 （13.2.2） 2 折板 （13.3.2） 3 県産瓦葺 4 瓦 （13.4.3） ⑤ とい（13.5.2） （表13.5.1）	<table><tr><td>施工箇所</td><td>屋根葺形式</td><td>板及びコイルの種類</td><td>塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号</td><td>厚さ等</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 下葺材料：【 ・ アスファルト-フィング®940 ・ 改質アスファルト-フィング®】 <table><tr><td>施工箇所</td><td>形式の区分</td><td>山高・山ピチ</td><td>耐力による区分</td><td>材料による区分</td><td>厚さ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (1) 軒先面戸板の適用：【 ・ 有り ・ なし】 (2) 断熱材張り【 ・ 実施する ・ 実施しない】 (1) 瓦は沖縄県産の赤瓦とする。 (2) 沖縄県技能評価認定制度に基づく琉球赤瓦施工技能評価試験の瓦葺き作業及び漆喰塗り作業に合格した者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 【 ・ 1名以上配置 ・ 施工面積 m2につき、 級技能評価試験に合格した者を1名配置】 (1) 瓦の緊結方法：（ ） <table><tr><td>材種</td><td>規格名称</td><td>材質</td><td>備考</td></tr><tr><td>硬質ポリ塩化ビニル</td><td>JISK6739</td><td></td><td></td></tr></table> ○ ルーフドレン SGP80A	施工箇所	屋根葺形式	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号	厚さ等						施工箇所	形式の区分	山高・山ピチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ							材種	規格名称	材質	備考	硬質ポリ塩化ビニル	JISK6739			14 金 属 工 事	1 あと施工アンカー（14.1.3） 2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 3 鉄鋼の亜鉛めっき 4 軽量鉄骨天井下地 （14.4.3）（14.4.4） 5 金属成形板張り （14.6.2）（14.6.3） 6 アルミニウム製笠木（14.7.2） （表14.7.1） ⑦ アルミニウム製手摺	あと施工アンカーの引抜試験：【 ・ 実施する・ 実施しない】 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの複合皮膜の種類：【 ・ A-1 ・ A-2】（JIS H 8602） （14.2.2）（14.7.2）（14.8.2）（14.8.3）（表14.2.1） <table><tr><td>施工箇所</td><td>種別</td><td>表面処理方法</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> （14.2.3）（表14.2.2） 屋外の軽量鉄骨天井下地 <table><tr><td>野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔</td><td>野縁の間隔</td><td>備考</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 補強方法等（ 図示による ） (1) 金属成形板の種類及び表面処理： (2) 長尺の場合における伸縮調整継手： (1) 構成部材による種類： (2) アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種類及び複合皮膜の種類は次による。 種別：【 ・ A-1 ・ B-1】 種類をB-1とした場合の複合皮膜の種類： 【 ・ A-1 ・ A-2】（JIS H 8602） (3) 固定金具の間隔及び固定方法： ○ 図示による（下水道事業団仕様）	施工箇所	種別	表面処理方法				野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	野縁の間隔	備考				15 左 官 工 事	1 ラス系下地 （15.2.4） 2 せっこうボード その他のボード 下地（15.2.5） 3 モルタル塗り （15.3.2）（15.3.5）	(1) 種類： ・ 通気工法（ ・ 二重下地 ・ 単層下地） ・ 直貼り工法（ ・ フォーム下地 ・ ラシート貼付下地） ・ 外張断熱工法で断熱材の外側に胴縁を施工する形式の通気工法を行う場合（ ） (2) 建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定がある場合の下地の仕様（ ） <table><tr><td>材料</td><td>種類</td><td>厚さ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> (1) モルタル： ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料（ ） (2) 既製目地材の適用及び形状： (3) 床の目地の設置及び工法： (4) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験： 【 ・ 実施する ・ 実施しない】	材料	種類	厚さ				<table><tr><td>位 置</td><td colspan="3">国頭東村字川田地内</td></tr><tr><td>工 事 名</td><td>川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）</td><td>繰返る通池</td><td></td></tr><tr><td>測量年月</td><td></td><td>図面説明</td><td rowspan="3">建築工事特記仕様書（3/4） NO SCALE</td></tr><tr><td>測 量</td><td></td><td></td></tr><tr><td>設 計</td><td></td><td></td></tr><tr><td>審 査</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>課 長</td><td>課 長 補 佐</td><td>係</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>図面番号</td><td colspan="3">25 葉 中 3 葉</td><td></td></tr></table>	位 置	国頭東村字川田地内			工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）	繰返る通池		測量年月		図面説明	建築工事特記仕様書（3/4） NO SCALE	測 量			設 計			審 査						課 長	課 長 補 佐	係							図面番号	25 葉 中 3 葉			
	記号の種類	適用箇所	備考																																																																																																																																																																																																								
			形状及び寸法は、図示による。																																																																																																																																																																																																								
	設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能																																																																																																																																																																																																									
	施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性																																																																																																																																																																																																				
	階段	ノンスリップタイル	無釉																																																																																																																																																																																																								
	タイルの種類	大きさ	工法	張付け材料の種類、塗厚等																																																																																																																																																																																																							
	施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	防虫処理																																																																																																																																																																																																					
施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	化粧薄板の厚さ																																																																																																																																																																																																						
施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理																																																																																																																																																																																																							
施工箇所	樹種	厚さ	品質、等級等	接着の程度	防虫・強度等																																																																																																																																																																																																						
施工箇所	厚さ	表裏面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性																																																																																																																																																																																																						
施工箇所	厚さ	等級																																																																																																																																																																																																									
施工箇所	屋根葺形式	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号	厚さ等																																																																																																																																																																																																							
施工箇所	形式の区分	山高・山ピチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ																																																																																																																																																																																																						
材種	規格名称	材質	備考																																																																																																																																																																																																								
硬質ポリ塩化ビニル	JISK6739																																																																																																																																																																																																										
施工箇所	種別	表面処理方法																																																																																																																																																																																																									
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	野縁の間隔	備考																																																																																																																																																																																																									
材料	種類	厚さ																																																																																																																																																																																																									
位 置	国頭東村字川田地内																																																																																																																																																																																																										
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）	繰返る通池																																																																																																																																																																																																									
測量年月		図面説明	建築工事特記仕様書（3/4） NO SCALE																																																																																																																																																																																																								
測 量																																																																																																																																																																																																											
設 計																																																																																																																																																																																																											
審 査																																																																																																																																																																																																											
	課 長	課 長 補 佐	係																																																																																																																																																																																																								
図面番号	25 葉 中 3 葉																																																																																																																																																																																																										
2 高力ボルト （7.2.2）（7.3.2） （7.4.2）（7.4.7）	<table><tr><td>種類</td><td>径</td><td>縁端距離</td><td>間隔</td><td>ゲージ</td><td>備考</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> すべり係数試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない】 試験の方法、試験片の摩擦面の処理：【 ・ 図示 ・ 】	種類	径	縁端距離	間隔	ゲージ	備考							9 防水工 事	⑨ 防水の種類等（9.2.2）（9.3.2）（9.4.2）（9.5.2）（9.6.1） 防水の種類 厚さ 施工箇所 (2) 防水層の種類（9.2.3）（9.3.3）（9.4.3）（9.5.3）（9.6.3） 防水層の種類 工法 備考 （表9.2.3）－（表9.2.9）（表9.3.1）－（表9.3.3） （表9.4.1）－（表9.4.3）（表9.5.1）（表9.5.2）（表9.6.2） (3) その他の材料等 ・ 押え金物：（材質）（寸法） ・ 絶縁用シート：（材質） ・ 断熱材：（材質）（厚さ） ・ 立上り部保護：（材質）（工法等） ・ 脱気装置：（種類）（設置数） ・ 仕上げ塗料：（種類）（使用量） (4) 施工 ・ 下地の処理方法等：（ ） (5) その他 ○ 無機質浸透性塗布防水 ○ 殊反応型無機質防水・遮熱断熱防水 <table><tr><td>シーリング材の種類</td><td>施工箇所</td><td>試験等</td></tr><tr><td>MS-2変成シリコン</td><td>アルミ建具周囲</td><td>※簡易接着性試験 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※簡易接着性試験 ・</td></tr></table>	シーリング材の種類	施工箇所	試験等	MS-2変成シリコン	アルミ建具周囲	※簡易接着性試験 ・			※簡易接着性試験 ・	⑪ タイル 工事	⑪ タイル 工事	(1) タイルの種類 <table><tr><td>施工箇所</td><td>形状・寸法</td><td>うわぐすり</td><td>吸水率</td><td>役物</td><td>色</td><td>耐滑り性</td></tr><tr><td>階段</td><td>ノンスリップタイル</td><td>無釉</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) タイルの試験張り：【 ・ 行う ・	施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性	階段	ノンスリップタイル	無釉																																																																																																																																																																						
種類	径	縁端距離	間隔	ゲージ	備考																																																																																																																																																																																																						
シーリング材の種類	施工箇所	試験等																																																																																																																																																																																																									
MS-2変成シリコン	アルミ建具周囲	※簡易接着性試験 ・																																																																																																																																																																																																									
		※簡易接着性試験 ・																																																																																																																																																																																																									
施工箇所	形状・寸法	うわぐすり	吸水率	役物	色	耐滑り性																																																																																																																																																																																																					
階段	ノンスリップタイル	無釉																																																																																																																																																																																																									

⑮左官工事へ続き

④仕上塗材仕上げ(15.6.2)
(表15.6.1)

5マステック塗料塗り(表15.7.2)

6せっこうプラスター塗り(15.8.2)(15.8.3)

7しっくい塗り(15.10.2)

8ロックウール吹付け(15.12.3)

種類	呼び名	仕上げの形状・工法等
図示による		

工程	種別	塗料その他

(1) 下塗り及び中塗りに用いるせっこうプラスター・既調合プラスター(下塗り用)・現場調合プラスター(下塗り用)

(2) 上塗り：・既調合プラスター(上塗り用)・しっくい塗り

(1) しっくい：・現場調合材料・既調合材料()

仕上げ厚さ：

⑮建具工事

1防火戸等(16.1.3)(16.1.6)

2見本の製作等(16.1.4)

③アルミニウム製建具(16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)(表14.2.1)(表16.2.1)

4樹脂製建具(16.3.2)(16.3.3)(16.3.4)(16.3.5)(表16.3.1)(表16.3.2)(表16.3.3)(表16.3.4)

5鋼製建具(16.4.1)(16.4.2)

6鋼製軽量建具(16.5.2)(16.5.3)(表16.2.1)

7ステンレス製建具(16.6.2)(16.6.3)

8木製建具(16.7.2)(16.7.4)

⑨建具用金物(16.8.2)(16.8.3)(表16.8.1)

種類	呼び名	仕上げの形状・工法等
図示による		

工程	種別	塗料その他

(1) 下塗り及び中塗りに用いるせっこうプラスター・既調合プラスター(下塗り用)・現場調合プラスター(下塗り用)

(2) 上塗り：・既調合プラスター(上塗り用)・しっくい塗り

(1) しっくい：・現場調合材料・既調合材料()

仕上げ厚さ：

(1) 建具の性能等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所
○C種	S-6(2800)	A-4(2)	W-S(500)	○70・100	図示による

(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級

ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考
・防音ドアセット			
・断熱ドアセット			
・耐震ドアセット			

(3) 外部に面する建具の表面処理の種別及び複合皮膜の種類

種別：B-1

複合皮膜の種類：【・A1・A2】(JIS H 8602)

(4) 結露水の処理方法：

(5) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。

(1) 建具の性能等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所

(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級

ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考
・防音ドアセット			
・断熱ドアセット			

(3) 表面色：

(4) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。

(5) ガラス：※複層ガラス・単板ガラス・三重ガラス

(6) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級【・】

(1) 建具の性能等

施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)

(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級

ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考
・簡易気密型ドアセット			

(3) 鋼板の種類：【・JIS G 3302・JIS G 3317】

(4) 重量がある扉等・24その他1重量がある扉等による。

(1) 建具の性能等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所

(2) 特殊なドアセット等の適用及び等級

ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考
・簡易気密型ドアセット			

(3) ビニル被覆鋼板：【・使用する・使用しない】

(4) カラー鋼板の適用：【・使用する・使用しない】

(1) 建具の性能等

施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考(材料等)

(2) 表面仕上げ：【※HL・パイブレーション・鏡面・】

(1) かまち戸かまちの樹種：、鏡板の樹種：

(2) ふすま上張りの種類：、緑の仕上げ：

(1) 建具用金物の材質、形状及び寸法

形式	金物の種類	見え掛け部の材質	備考
図示による			

(2) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。

⑩鍵(16.8.4)

11自動ドア開閉装置(16.9.3)(表16.9.4)

12シャッター(16.11.2)(16.12.2)(16.12.4)

13オーバーヘッドドア(16.13.2)

⑭ガラス(16.14.2)(16.14.4)(16.14.5)

17カーテンウォール工事

⑮塗装工事

19内装工事

20ユニット及びその他工事

21排水工事

(1) マスターキー：【○製作する・製作しない】

(2) 関連工事がある場合は、受注者間で協議し1つの鍵箱にまとめて納品する。

(1) 戸の開閉方法：【・引戸・開き戸・折戸】

(2) センサーの種類：

(1) シャッターの種類：【・重量()・軽量】

(2) 耐風圧強度：

(3) 開閉機能：【・手動式・電動式】

(4) 重量シャッターの場合のシャッターケース：【・設ける・設けない】

(5) スラットの形式：【・インターロッキング形・オーバーラッピング形】

(1) 耐風圧性能の区分：

(2) 開閉機能：【※バランス式・チェーン式・電動式】

(3) 収納形式による区分：

(1) ガラスの種類及び厚さ等

ガラスの種類	厚さ等	備考
フロント板ガラス	5mm	

(2) ガラス留め材

建具の種類	材種

(3) 熱線反射ガラスの映像調整：

(4) ガラスブロックの材料及び工法

表面形状	呼び寸法	厚さ	壁用金属枠	補強材	色	金属製化粧板

(1) カーテンウォールの種類：【・金属・PC】

(2) 性能

耐風圧性能	耐震性	水密性	気密性	耐火性	耐温度性	遮音性	断熱性

(3) 材料の種類

金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガスケット

(4) 先付け材料：【・建具枠・ゴンドラ用ガイドレール・仕様等については、図示による。

(5) メタルカーテンウォール製品の見え掛け部分の仕上げ：

(6) PCカーテンウォールの仕上げ：

(7) 構造ガスケットを用いるガラスの取付け：

塗装面

素地ごしらえ工程の種類	塗料の名称種類	塗装工程の種類	施工箇所

防火材料の指定【・有・無】

○エポキシ樹脂塗装 ※塗装面は十分に乾燥させること。

(1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。

(2) 保証期間は、工事完成後【】年間とする。

(1) ビニル床シート等(19.2.2)(19.2.3)

(1) ビニル床シートの材料及び工法

施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用
				・有り・無し
				・有り・無し

(2) ビニル床タイル、ゴム床タイル

施工箇所	種類(・形状)	厚さ等

(3) 特殊機能床材の適用：

【・帯電防止床シート又は床タイル・視覚障害者用床タイル・耐動荷重性床シート・防滑性床シート又は床タイル】

施工箇所	種類(・形状)	厚さ等

(1) 床材の種類・厚さ

施工箇所	床材の種類・厚さ	パイプ形状等	工法
			・ケリガバー・全面接着
			・ケリガバー・全面接着

(1) 帯電性の適用【・有り・無し】

(2) 見切り、押さえ金物の材質、種類及び形状は図示による。

エポキシ樹脂系塗床の仕上げの種類：

施工箇所	工法	品名	備考(樹種、種別等)

5フローリングボードの特殊張り

6畳敷き(19.6.2)

7せっこうボード、その他ボード及び合板張り(19.7.2)(19.7.3)(表19.7.5)

8壁紙張り(19.8.2)

9断熱及び防露(19.9.3)(19.9.4)

20ユニット及びその他工事

21排水工事

体育館、武道場等の床の強度、弾力性を特に要求される広い床は、日本体育床下地工業会編「体育館床工事標準施工要領書」による。

(1) 畳の種別【・A種・B種・C種・D種(種別：)】

(2) 畳表に使用する材料は沖縄県産とする。

(1) せっこうボード

規格名称	種類の記号	厚さ	施工箇所	目地工法の種類

(2) 合板の種類

合板の名称	施工箇所	その他の仕様
		※図示(A-)による。

※合板の木材処理(防虫・防蟻)については、本特記仕様書第12章第3項及び第4項を適用する。

(3) 軽量鉄骨壁下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材：

【】

品質及び防火性能：【】

断熱材の種類及び厚さ：【】

(1) フリーアクセスフロア(20.2.2)

施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗

(2) 可動間仕切(20.2.3)

施工箇所	構造形式	構成基材	遮音性	表面仕上げ	建具寸法等

(3) 移動間仕切(20.2.4)

施工箇所	種類	表面材	操作方法	遮音性	備考

あと施工アンカーの使用：【・有り・無し】

材質、寸法等は図示による。

(1) 手すり【・SUS304(表面処理・鋼製表面処理溶融亜鉛めっき)(※標準仕様書表14.2.2による種別(・種))・】

※HL程度)

材質

材種	形状	寸法	備考

形式

種類	スラットの材質	スラットの幅	施工箇所

操作方式

幅及び高さ	材種	品質等	施工箇所

形式

開閉操作	きれ地の種別等	施工箇所	備考

(1) 間知石

材種	目塗り	目地の材種・厚さ等	施工箇所
			図示【A-】

(2) コンクリート間知ブロックの適用がある場合の種類及び質量区分：【・】

(1) くつふきマットの材種：【・塩化ビニル又はゴム製・硬質アルミニウム合金製・ステンレス鋼(SUS304)製】

(2) 受け枠の材種：【・硬質アルミニウム合金製・ステンレス鋼(SUS304)製】

名称

寸法	適用内容	規格・品質	備考

流し台

コンロ台

材質

管の種類	呼び径	備考

(1) 側塊

形状	寸法	備考

(2) 排水枡

種類	適用荷重	備考

2側塊、排水枡等(21.2.1)

23舗装工事

24その他

(3) グレーチング

材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考

(4) 地盤の材料：【】

基礎の厚さ及び種類は図示による。

コンクリート緑石及び側溝

名称	規格名称	形状	寸法等	備考

(1) 路床の種類等

層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験

(2) ジオテキスタイルの適用及び品質：

(1) 路盤の厚さ：【】

(2) 締固め度試験：【】

(1) 構成及び厚さ：【・図示による(A-)・】

(2) 加熱アスファルト混合物等の種類：【・密粒度アスファルト混合物(13)・再粒度アスファルト混合物(13)】

(3) シールコートの適用：【・有り・無し】

(1) 構成及び厚さ：【・図示による(A-)・】

(2) 種類：【・加熱系()・常温系()】

(3) 添加する着色骨材又は自然石【・図示による(A-)・】

(4) その他【・】

構成及び厚さ：【・図示による(A-)・】

(1) ブロック系舗装の適用：【・コンクリート平板舗装・インターロッキングブロック舗装・舗石舗装】

(2) 種類及び寸法等：【・図示による(A-)・】

(3) ジオテキスタイルの適用及び品質：【】

1植栽地の確認(23.1.3)(23.2.2)(23.2.3)

2植樹(23.3.2)-(23.3.4)(23.3.6)

3芝張り等(23.4.2)

4屋上緑化(23.5.2)(23.5.3)(23.5.4)

1重量がある扉等

・図示による【・(A-)・】

・施工図及び施工計画書(工場製作要領書・工事現場施工要領書を含む)の記載事項は、標準仕様書16章建具工事に加え、標準仕様書17章鉄骨工事に準拠することとし、扉の取り付け方法、溶接、塗装計画、ボルト等接合体作業手順等を考慮しながら品質計画を作成する。施工図及び施工計画書を工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出し承諾を得るものとする。

位 置

国頭郡東村字川田地内

工 事 名

川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)縦速ろ過池

測量年月

図 面

測 量

設 計

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (4/4)

審 査

NO SCALE

課 長

課 長 補 佐

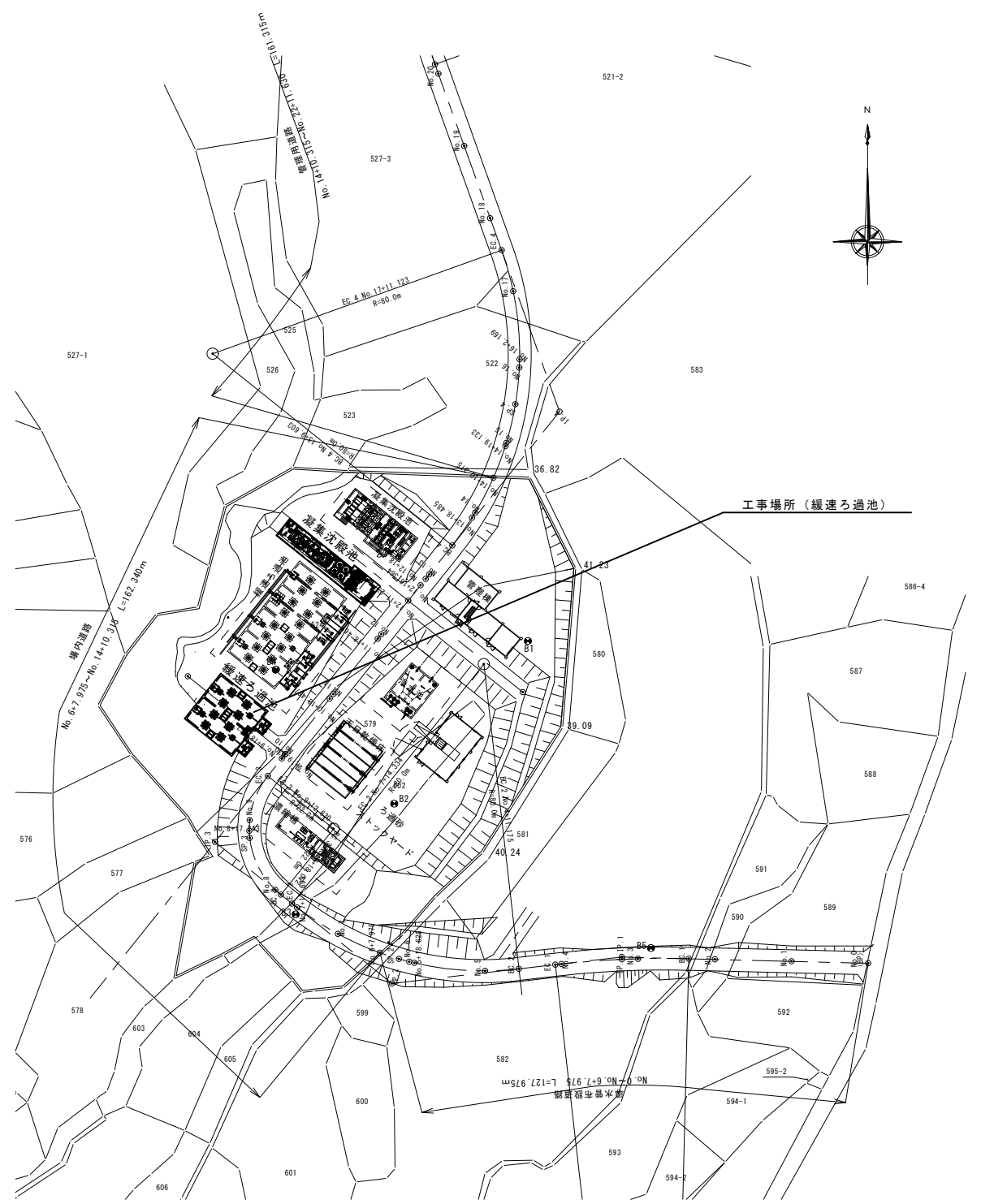
係

図面番号

25 葉 中 4 葉



位置図
S=1/5000

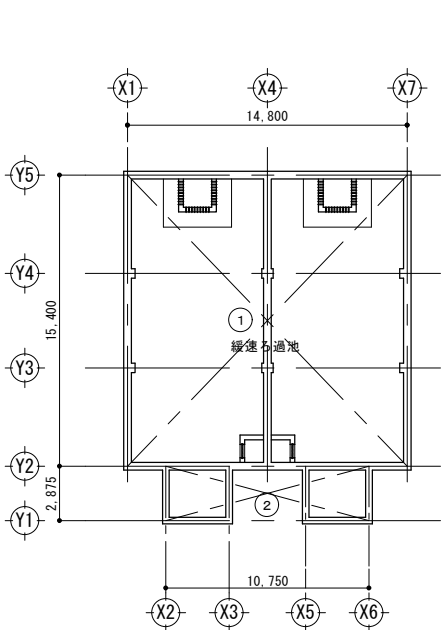


全体配置図
S=1/800

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図面説明 案内図・全体配置図 S=1/5000 (A1) S=1/10000 (A3) S=1/800 (A1) S=1/1600 (A3)	
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 5 葉		

建 物 概 要				外 部 仕 上 表			註 記
工 事 名 称	川田浄水場建設工事（緩速ろ過池）	敷 地 面 積	m ²	項 目	仕 上	そ の 他 * 外部打放し仕上について ○ 地下部 — — Ⓒ ○ 地上部 — — Ⓑ ○ 底裏（天井） — — Ⓑ	可動式FRP製覆蓋[機械設備工事]
建 設 場 所		延 床 面 積	289.62 m ²	屋 根（陸 屋 根）	コンクリート金コテ仕上の上、塗膜防水（特殊反応型無機質防水、遮熱断熱仕様）		1. 沈澱池上部開口 2,500×13,000（8分割@1,635）2ヶ所
建 物 規 模	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上1階	容 積 率	%	頂 版（ろ 過 池）	コンクリート直均し仕上		
用 途 地 域		建 築 面 積	258.83 m ²	軒 表	コンクリート補修の上、防水形複層塗材（複層弾性）		
防 火 地 域	指定なし	建 べ い 率	%	外 壁（上 家）	コンクリート（増打⑦20）補修の上、防水形複層塗材（複層弾性）		
そ の 他 の 地 域		最 高 軒 高	3.90m	外 壁（ろ過池：地上）	コンクリート補修の上、防水形複層塗材（複層弾性）		
		最 高 高 さ	3.93m	外 壁（ろ過池：地下）	コンクリート補修の上 無機質浸透性塗布防水（セレガードDS同等品）		
				建 具	アルミドア アルミサッシ		
				樋	縦樋 φ75（硬質塩ビ管）		
				外 階 段	ノンスリップ：磁器質150×60 けあげ、踏み面：モルタル金コテ⑦30塗り仕上		
				外 部 手 摺	アルミ製手摺：H＝1,100 鎖（SUS 5mm）L＝3,000 2段（2カ所）		

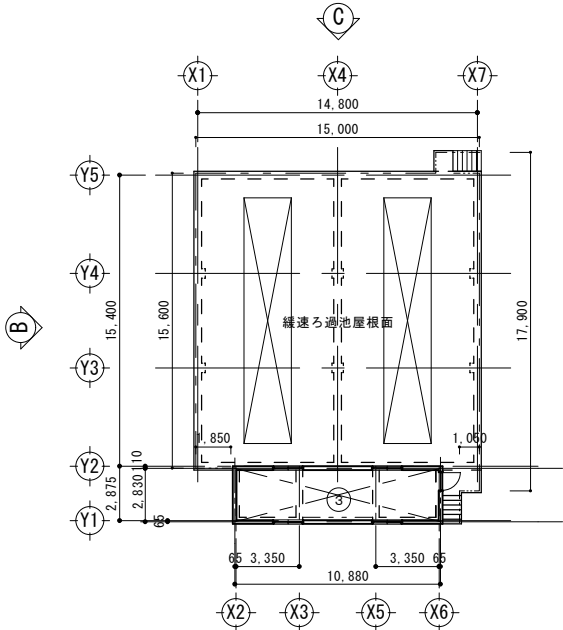
内 部 仕 上 表											
階	室 名	下地	床		巾 木	腰 壁	壁		天 井		備 考
			仕 上	コテ仕上			仕 上	仕 上	打放仕上	仕 上	
B 1 階 （水槽内）	ろ 過 池	R C	コンクリート金コテ仕上の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	薄物			コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	Ⓑ	コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	Ⓑ	マンホール蓋 Φ 9 0 0 （ F R P 製 ロ ッ ク 付 き ） タ ラ ッ プ Φ 1 9 - 3 0 0 × 3 0 0 （ S U S 3 0 4 ） 側溝蓋 幅＝5 6 0 長さ＝6 0 0 厚さ＝1 2 0
	調 整 井	R C	コンクリート金コテ仕上の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	薄物			コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	Ⓑ	コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	Ⓑ	点検用人孔蓋（ F R P 製 ） 8 0 0 角 タラップ Φ 1 9 - 3 0 0 × 3 0 0 （ S U S 3 0 4 ）
	流 入 井	R C	コンクリート金コテ仕上	薄物			コンクリート打放し仕上	Ⓑ	コンクリート打放し仕上	Ⓑ	タラップ Φ 1 9 - 3 0 0 × 3 0 0 （ S U S 3 0 4 ） 中間踊場手摺 H＝1, 1 0 0 （アルミ製）
1 階	操 作 室	R C	コンクリート金コテ仕上	薄物			コンクリート打放し仕上	Ⓑ	コンクリート打放し仕上	Ⓑ	



地階平面図 S=1/200 (A1)
S=1/400 (A3)

（ 建築面積 ）

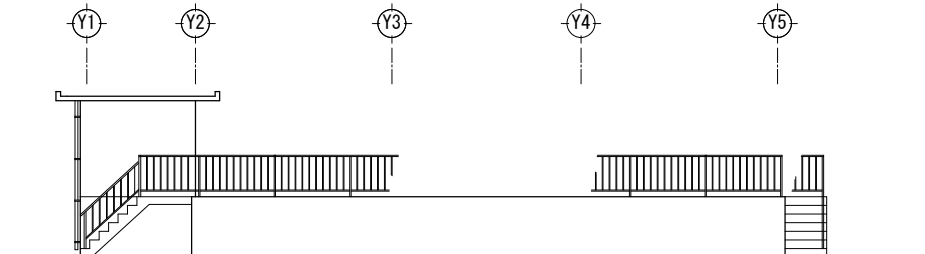
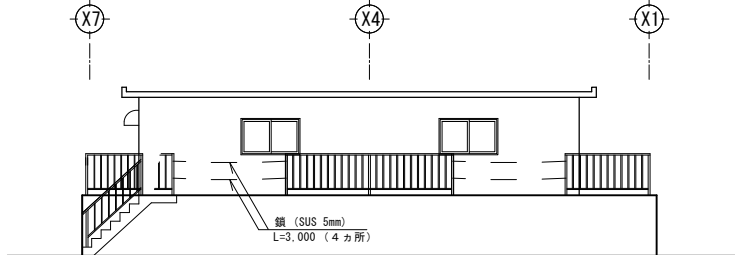
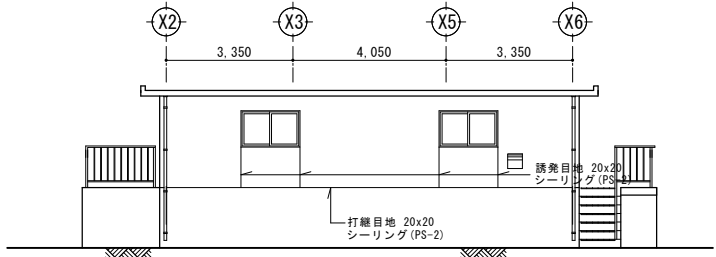
位 置	面 積 算 定 式	面 積
①	14,800×15,400	227.920 m ²
②	10,750×2,875	30.906 m ²
合 計		258.826 m ²
		258.83 m ²



1階平面図 S=1/200 (A1)
S=1/400 (A3)

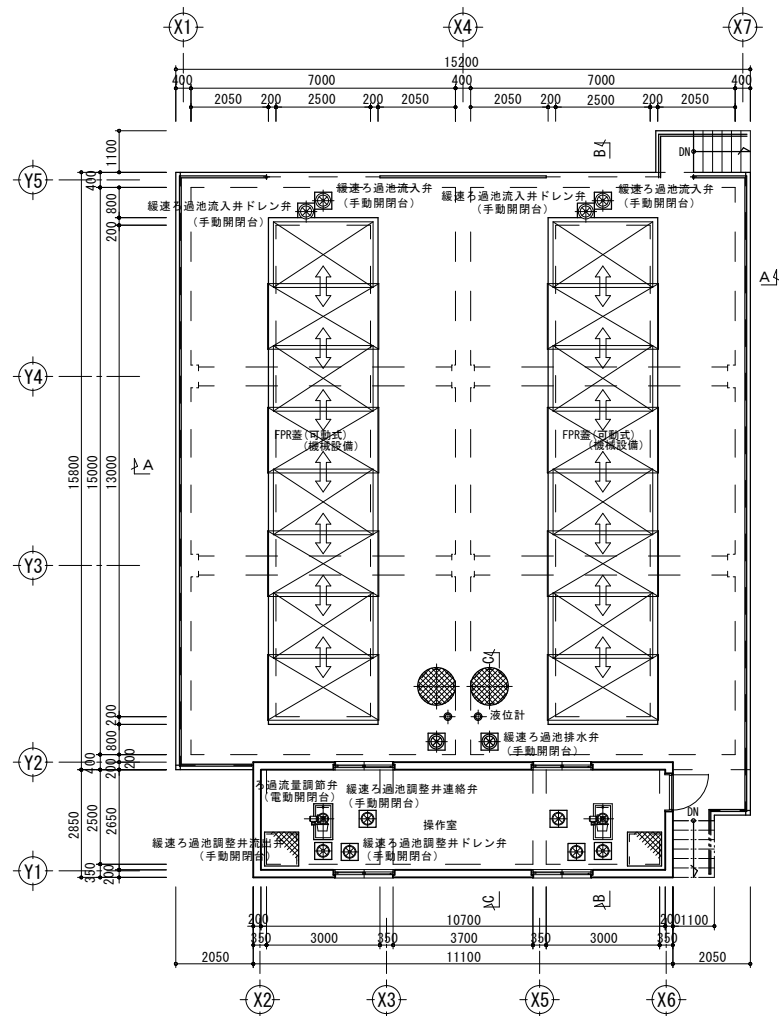
（ 延べ床面積 ）

階	位 置	面 積 算 定 式	面 積
地 階	①	14,800×15,400	227.920 m ²
	②	10,750×2,875	30.906 m ²
	小計		258.826 m ²
1 階	③	10,880×2,830	30.790 m ²
合 計			289.616 m ²
			289.62 m ²

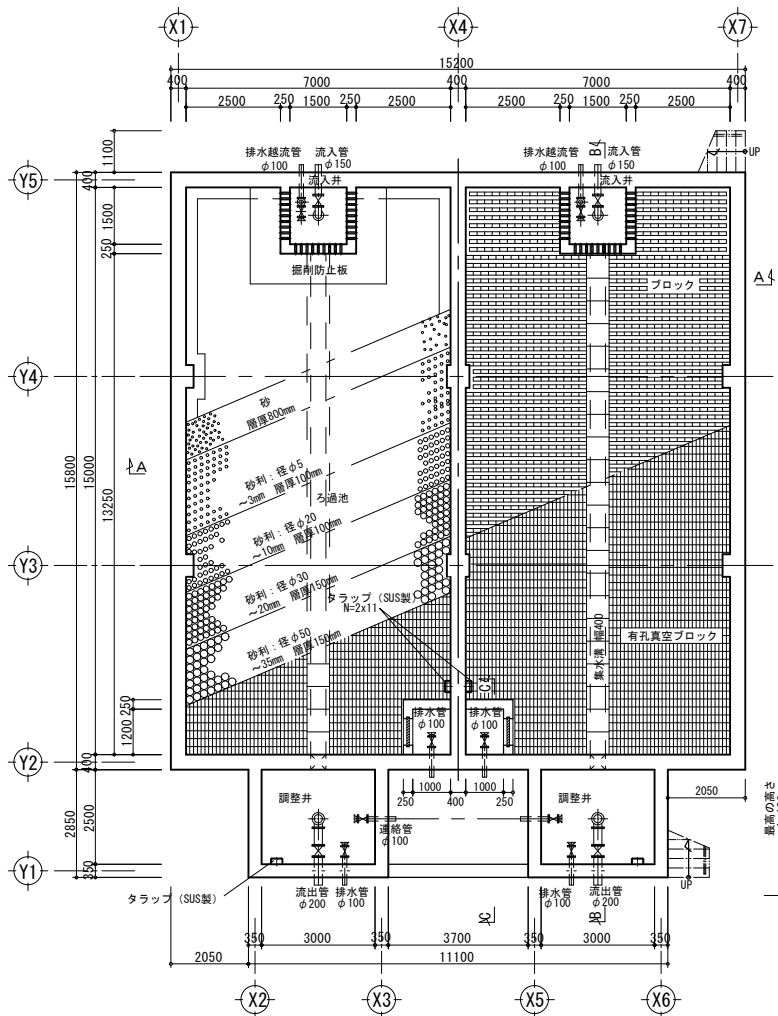


D 立面図 S=1/100 (A1)
S=1/200 (A3)

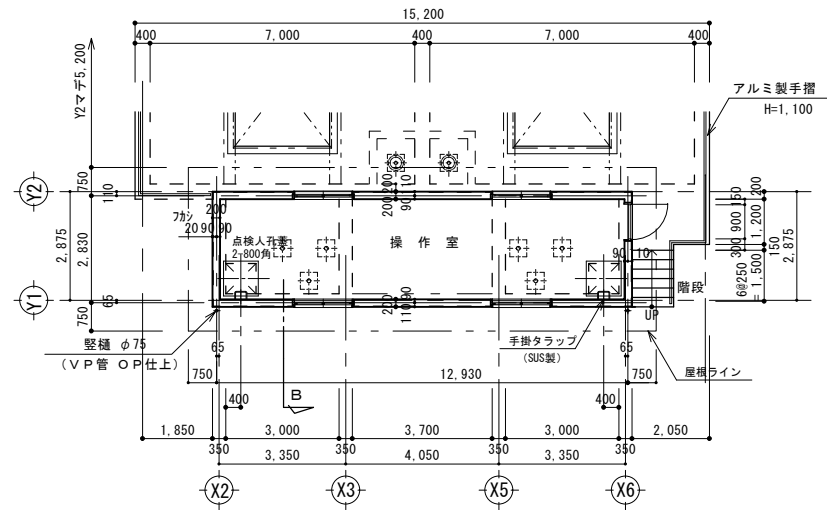
位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図 面 説 明 構造図（1/2） 図示による	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 6 葉		



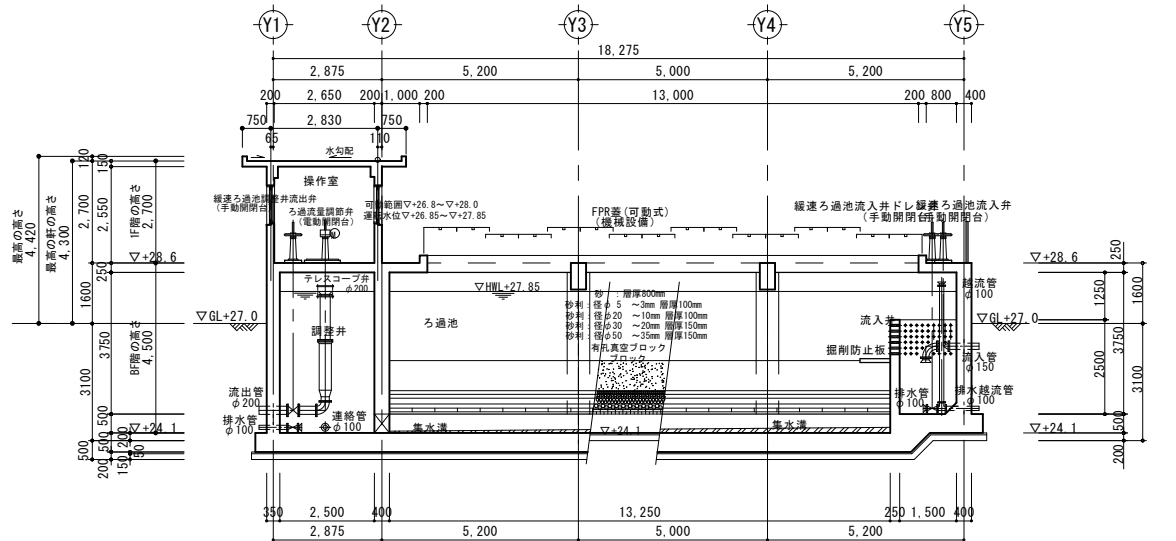
1 階 平 面 図



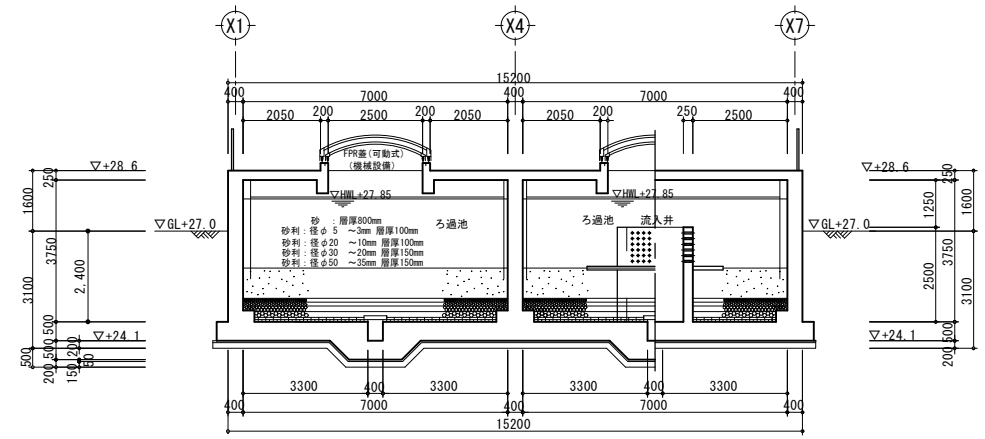
地 階 平 面 図



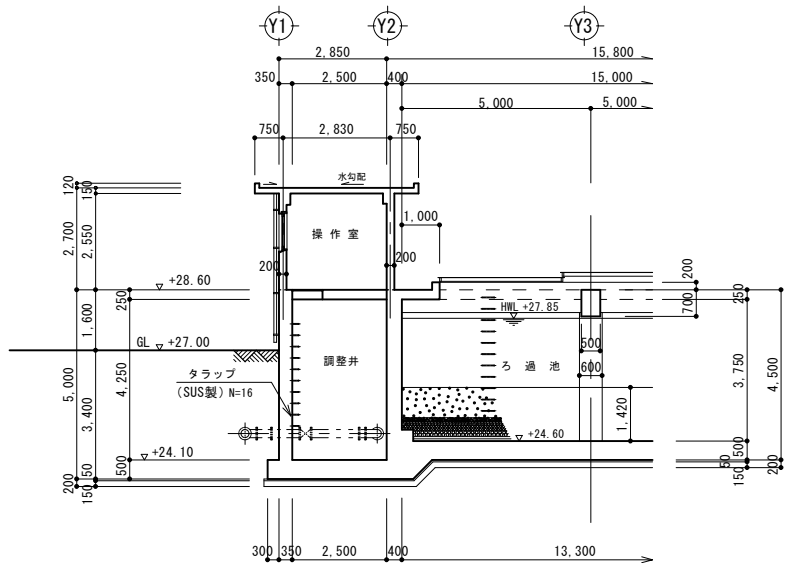
上 部 平 面 図



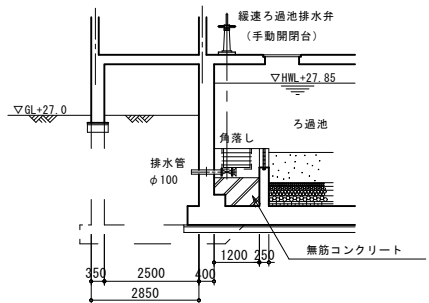
B - B 断 面 図



A - A 断 面 図



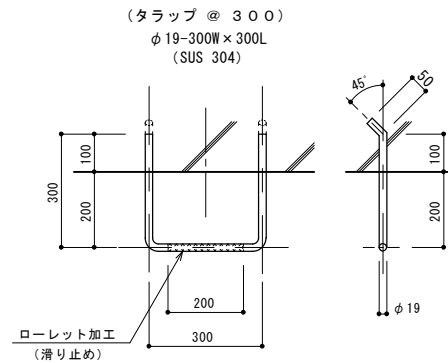
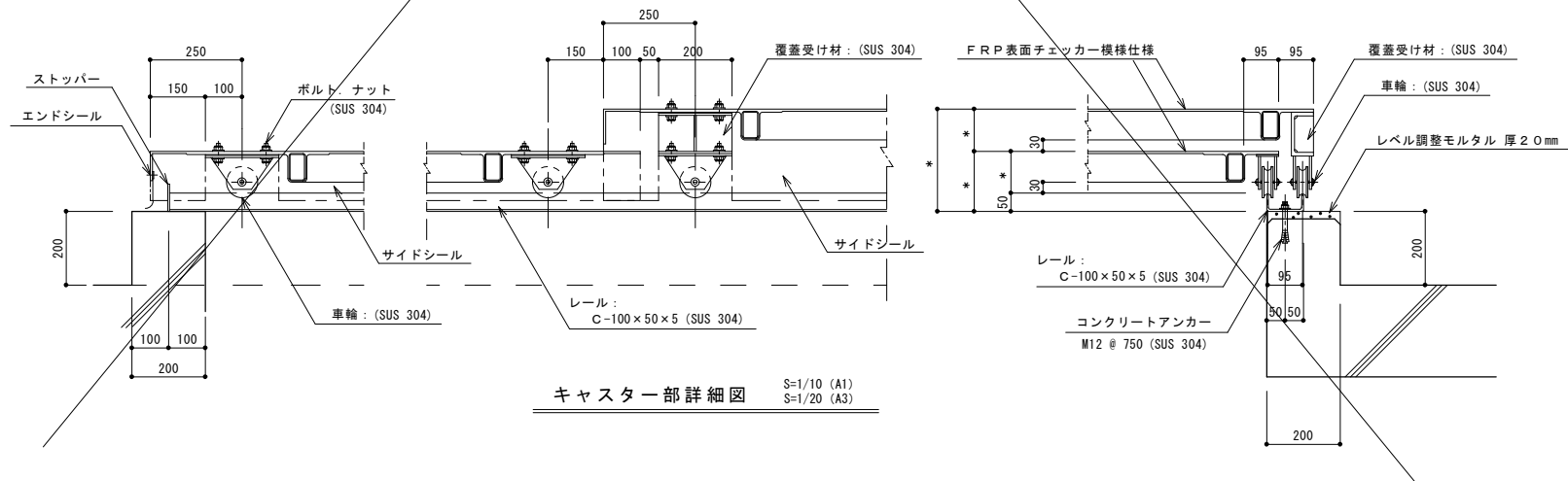
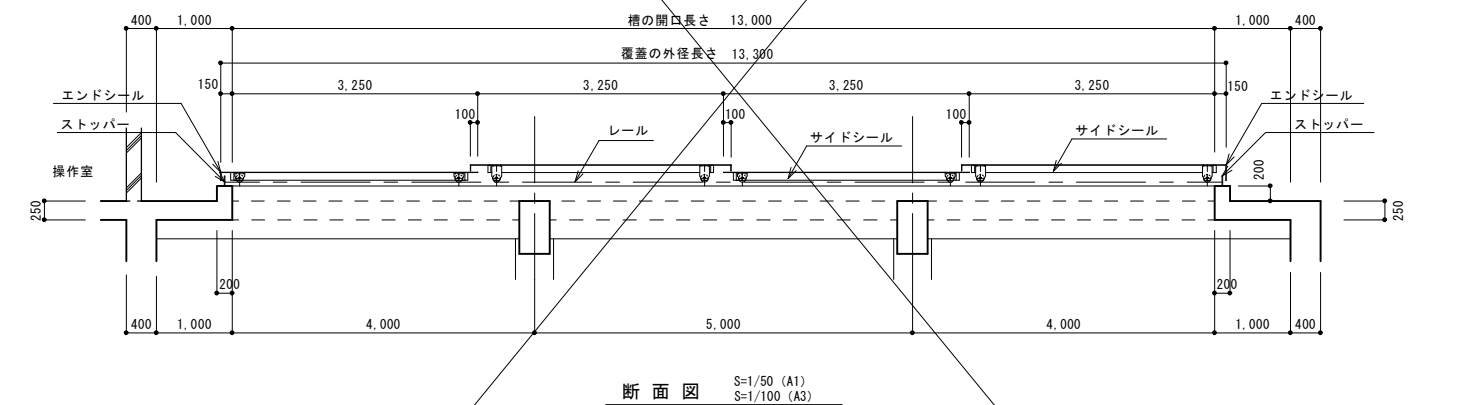
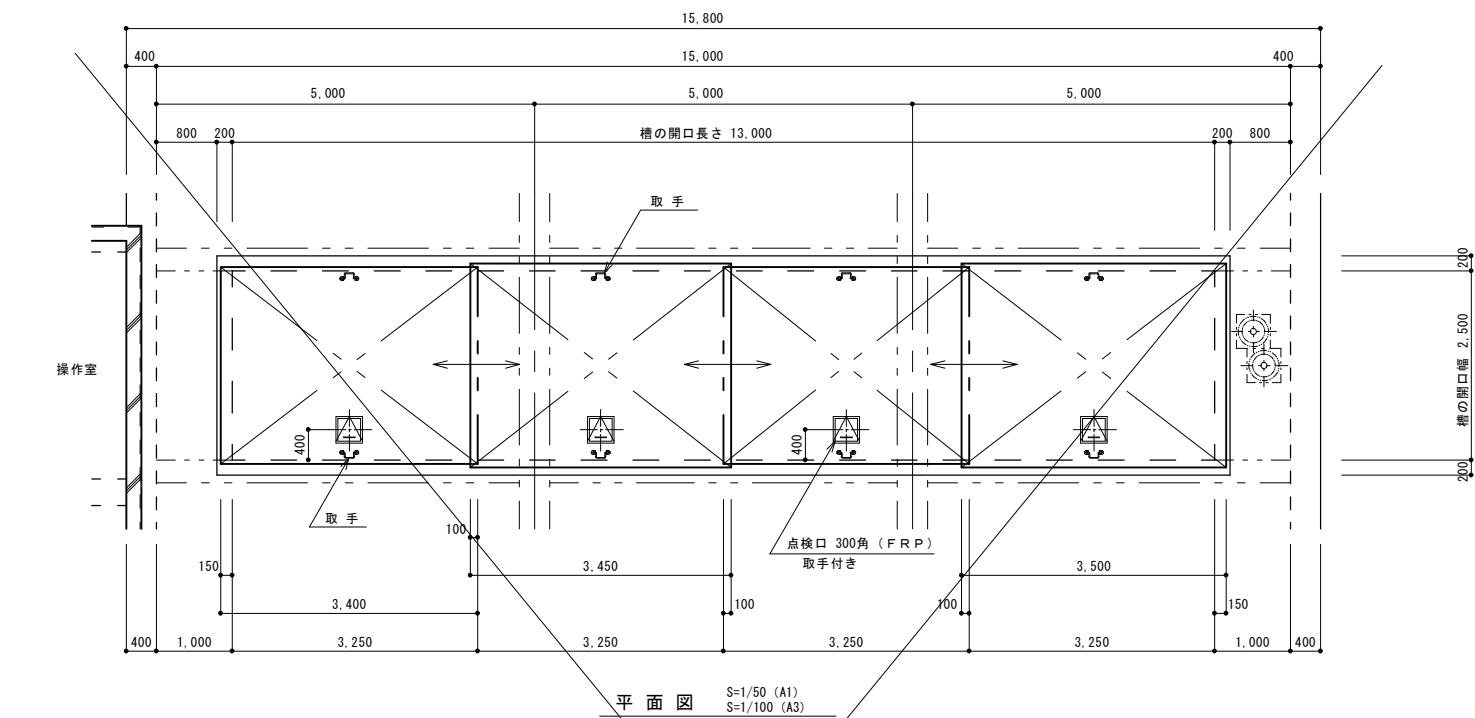
C - C 断 面 図



D - D 断 面 図

位 置	国 頭 郡 東 村 字 川 田 地 内		
工 事 名	川 田 浄 水 場 第 1 期 拡 張 工 事 (土 木 建 築) 緩 速 ろ 過 池		
測 量 年 月		図 面 説 明	構 造 図 (2/2)
測 量			
設 計			S=1/100 (A1) S=1/200 (A3)
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 7 葉		

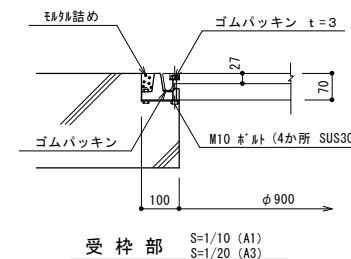
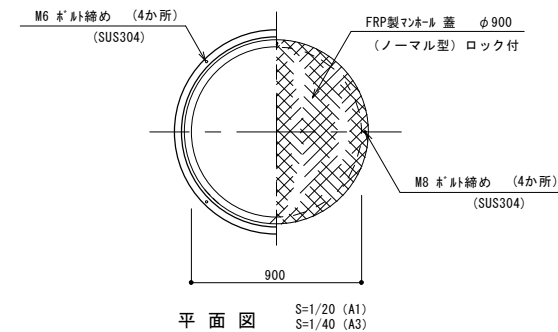
可動式FRP蓋詳細図（機械設備工事） 2カ所



部材表

施設名	場所	本	カ所	本数	備考
緩速ろ過池	ろ過池	11	2	22	
	調整井	15	2	30	手掛部も含む
	合計			52	

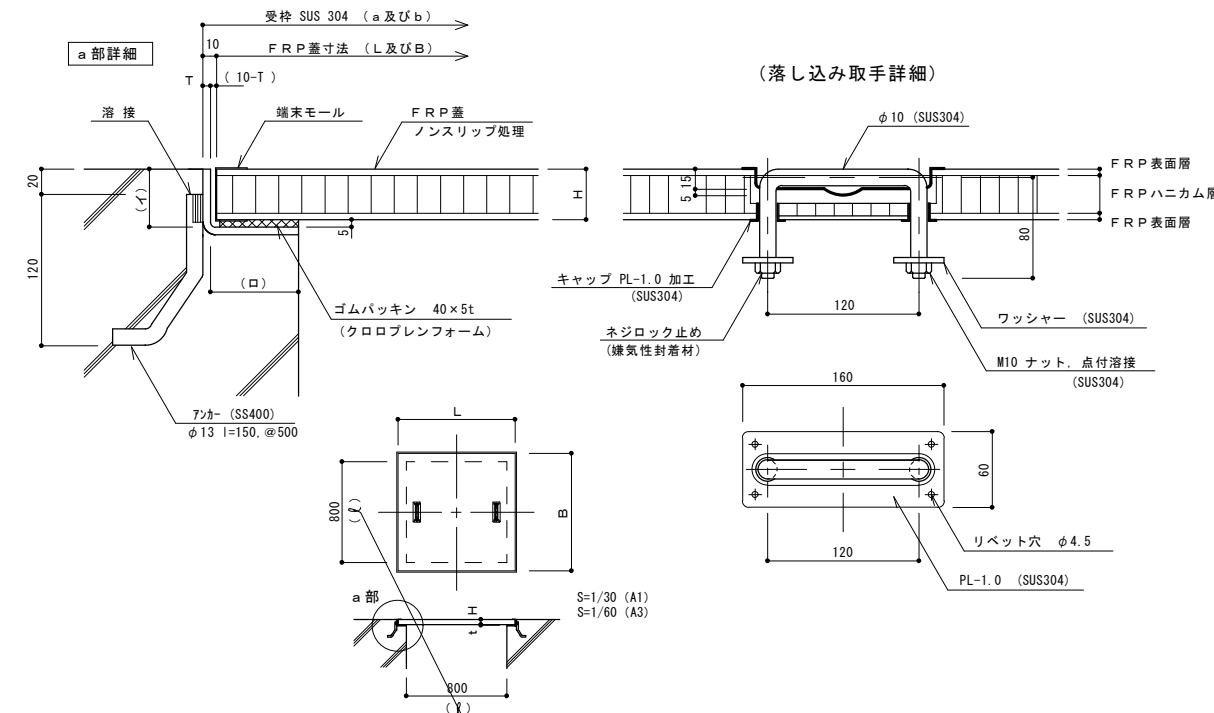
FRP製マンホール蓋詳細図 4ヶ所



点検用人孔蓋：ハニカムタイプ（FRP製 短尺タイプ） 4カ所

設計荷重 (3.5KN/m²) 360kgf/m² , 許容たわみ量 L/200

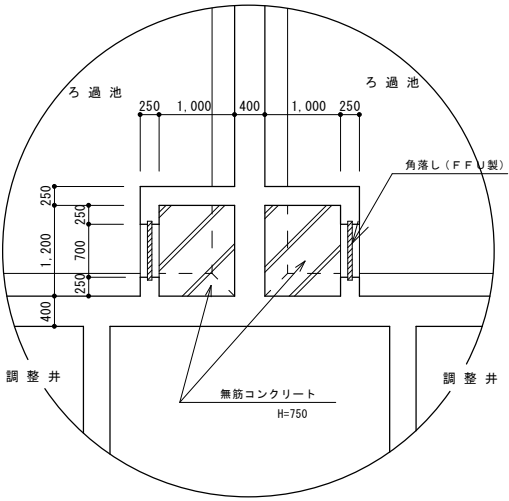
S=1/3 (A1)
S=1/6 (A3)



FRP蓋形式選定表 (参考)

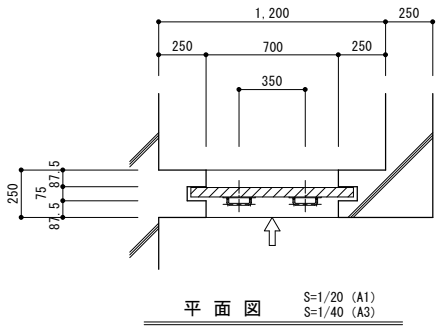
適応スパン (ℓ)	パネル外寸法 (mm)	受枠外寸法 (mm)	パネル重量
360kg/m ² かつ100kg/枚	(L) × (B) (H)	(a) × (b) (T) (イ) × (ロ)	kgf/m ²
~ 800	開口寸法 + 60	30 開口寸法 + 140	3 40 × 40 12.5
~ 1,000	開口寸法 + 80	35 開口寸法 + 160	4 45 × 50 13.3
1,001 ~ 1,300	開口寸法 + 110	50 開口寸法 + 160	4 60 × 65 14.0
1,001 ~ 1,300	開口寸法 + 150	75 開口寸法 + 220	5 85 × 85 15.5

位置	国頭郡東村字川田地内
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木・建築) 緩速ろ過池
測量年月	
測量	図面説明
設計	詳細図 (1/3)
審査	図示による
課長	課長補佐
係	
図面番号	25 葉中 8 葉

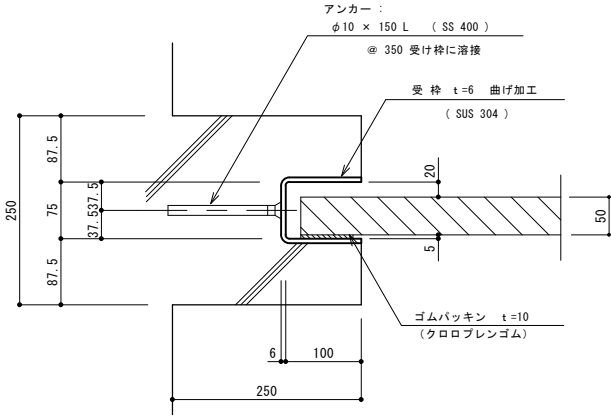


案内図 S=1/50 (A1)
S=1/100 (A3)

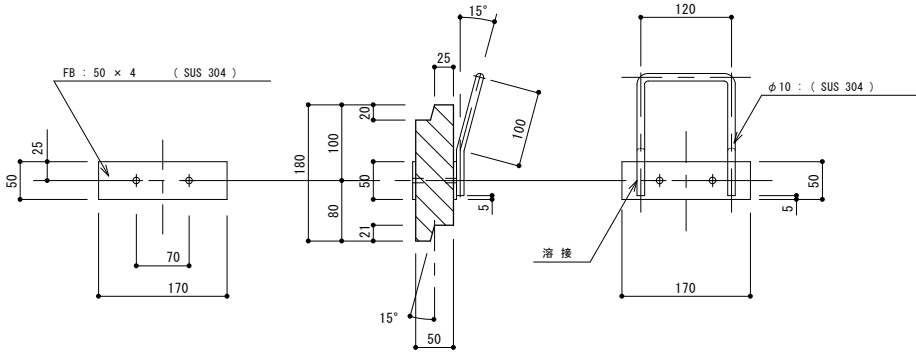
角落し：合成木材製取手 及び 受枠詳細図 2カ所



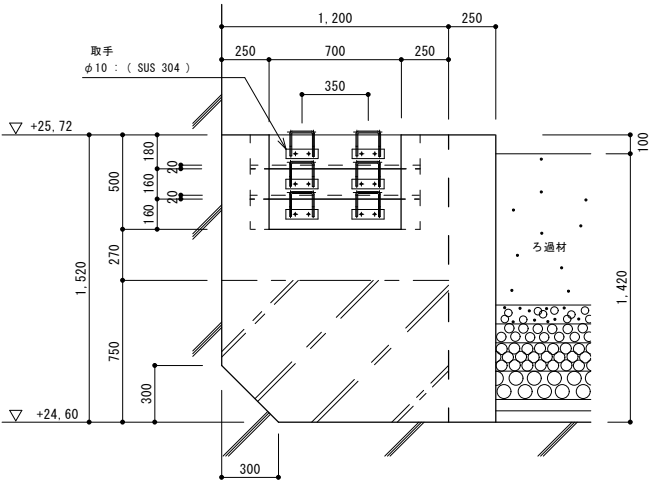
平面図 S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)



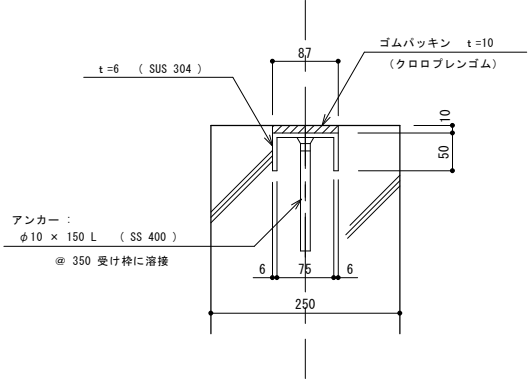
受枠詳細図 S=1/5 (A1)
S=1/10 (A3)



合成木材製取手詳細図 S=1/5 (A1)
S=1/10 (A3)

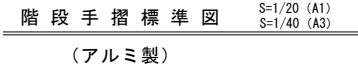
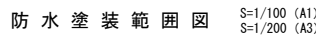
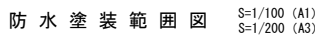
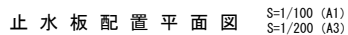


断面図 S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)



底部敷金物詳細図 S=1/5 (A1)
S=1/10 (A3)

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）縦速ろ過池		
測量年月		図面説明	詳細図（2/3） 図示による
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 9 葉		



位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測 量 月	図 面 説 明	詳細図（3/3） 図示による	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 10 葉		

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所 国頭郡東村字川田内地

(2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築

(3) 構造設計一級建築士の関与 ☐必要 ☒必要としない

☐法第20条第一号（高さ60m超）
☐法第20条第二号（RC造高さ20m超 ☐S造4階建以上 ☐木造高さ13m超 ☐その他）

注（3）構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する事。

(4) 構造種別 ☐木造（W） ☐鉄骨造（S） ☒鉄筋コンクリート造（RC）
☐補強コンクリートブロック造（CB） ☐壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
☐鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
☐混構造（木造＋鉄骨造） ☐プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

(5) 階数
地下 1 階 地上 1 階 塔屋 0 階

(6) 主要用途 機械室

(7) 屋上付属物 ☐高架水槽 ☐キューピクル ☐広告塔 ☐煙突

(8) 特殊な荷重 ☐エレベータ 人乗り（マシルームレス ロープ式 油圧式） ☐リフト kN ☐ホイスト kN
☐ ☐受水槽 kN ☐

(9) 付帯工事 ☐門 塙 ☐擁 壁 ☐駐輪場 ☐機械式駐車場 ☐

(10) 増築計画 ☐有（ ） ☒無

(11) 構造計算ルート X方向 ルート-1 Y方向 ルート-1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS G 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)

適用箇所	種 類	設計基準強度 Fc = N/mm2	品質基準強度 Fq = N/mm2	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	—	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	21	15	
基礎、底盤	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
ラップルコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通				
押えコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	21	15	

○構造体強度補正値及び構造体強度補正値(S)は
建築工事特記仕様書（その2）による

(2) コンクリートブロック (JIS A 5406)

A種	B種	C種	厚	100	120	150	190

(3) 鉄 筋

種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D16以下	躯体
	<input type="checkbox"/> SD295B		
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19以上	躯体
	<input checked="" type="checkbox"/> SD390		
	<input type="checkbox"/>		
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材種		
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB-		
丸 鋼 (JIS G 3112)	<input type="checkbox"/> SR235		
溶接金網 (JIS G 3551)	<input type="checkbox"/> SR235		

○使用箇所の詳細については別途図示とする

(4) 鉄 骨

種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
<input type="checkbox"/> SS490 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400A、B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR406 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/> STK400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> BCP325		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN490C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SS400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
溶接材料	JIS Z		
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM-FD490A(認定品)		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(5) ボルト

種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
<input type="checkbox"/> 高力ボルト		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> F10T (JIS B1186) <input type="checkbox"/> S10T 認定番号 (NBLT-2062) <input type="checkbox"/> F8T 認定番号 (NBLT-0061) (<input type="checkbox"/> M16 <input type="checkbox"/> M20 <input type="checkbox"/> M22 <input type="checkbox"/> M24)			
<input type="checkbox"/> ボルト (JIS B1186) <input type="checkbox"/> M12 <input type="checkbox"/> M20 <input type="checkbox"/> 4.8(4T) <input type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/> アンカーボルト φ=16 ナット <input type="checkbox"/> シングル <input checked="" type="checkbox"/> ダブル			
<input type="checkbox"/> 特殊ベースプレート : ベースパック			
<input type="checkbox"/> 頭付きスタッドボルト φ= L= mm 使用箇所 (<input type="checkbox"/> 柱 <input type="checkbox"/> 大梁 <input type="checkbox"/> 小梁)			

(6) 屋根、床、壁

材 種	形式 厚 その他	使用箇所
ALC版 (JIS K 5416)	厚	<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床版
折 版	H= 厚	<input type="checkbox"/> 屋根
デッキプレート (JIS G 3352)	形式 厚	<input type="checkbox"/> 床版
キーストングレート (JIS G 3352)	形式 厚	<input type="checkbox"/> 床版
		<input type="checkbox"/> 外壁
		<input type="checkbox"/> 外壁

3. 地 盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

☒有（☒敷地内 ☐近隣） ☐無（調査予定 ☐有 ☐無）

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験掘（支持層の確認）			平板載荷試験			凍状化判定		
スウェーデン式サウンディング試験			現場透水試験			PS試験		

注）上表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎、杭の位置を明記すること）

深 度	土 質	N 値	標準貫入試験	
			10 20 30 40 50 60	
35				○調査地番
				○位置図
30				地質調査報告書参照
				○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
25				
				○孔内水位
				○近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある
20				○備考

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

(1) 直接基礎 ☒ベタ基礎 ☐布基礎 ☐独立基礎 試験掘 ☐有 ☒無
深さ GL-2.9m 支持層 風化粘板岩層 長期許容支持力 500 kN/m2

(2) 杭基礎 支持層 載荷試験 ☒有 ☐無

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み(セメントミルク工法)	
<input type="checkbox"/> 摩擦杭 <input type="checkbox"/> 鋼管	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK400	<input type="checkbox"/> GMTOP工法	大臣認定第 号 年 月 日
<input type="checkbox"/> HC-TOPパイル	<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種	(平成12年建設省版指発第176号)	
<input type="checkbox"/> 場所打ち	コンクリート Fc = 24 N/mm2	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拡底杭	<input type="checkbox"/> 拡底杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日
コンクリート杭	セメント量 ≥3.3 kN/m3	<input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション	
	鉄 筋 主 筋 SD345	<input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	
	フープ SD295	<input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎	

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書

試験杭 (☐有・ ☐無) (☐打ち込み・ ☐載荷) 本

杭 径 (mm)	設計支持力 (kN/本)	杭先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Fc）が36 N/mm2以下に適用し、鉄筋の材質は SD390 以下に適用する。

(1) コンクリート

☒コンクリートは JIS A 5308(レディーミクストコンクリート)に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5による。

☒耐久設計基準強度 Fd ☐一般 ☒標準 ☐長期

☒セメントはJIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

☒構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T-6031によることとし、供試体は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また打ち込み量が150m3を超える場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数採取する。尚、供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

☒コンクリート打ち込み中及び打ち後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。

☒乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

(2) 鉄 筋

☒鉄筋はJIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5による。

☐高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD1種1号適合品とする。

☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。

☒鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径	
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)			
		A 級	B 級	SA級	
<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手	<input checked="" type="checkbox"/> 40d <input type="checkbox"/> 35d <input type="checkbox"/> () d				<input checked="" type="checkbox"/> D16以下
<input checked="" type="checkbox"/> 圧接継手	<input checked="" type="checkbox"/> 告示1463号第2項各号				<input type="checkbox"/> D19以上
<input type="checkbox"/> 溶接継手	<input type="checkbox"/> 告示1463号第3項各号				<input type="checkbox"/> D () 以上
<input type="checkbox"/> 機械式継手	<input type="checkbox"/> 告示1463号第4項各号				<input type="checkbox"/> D () 以上

注）(1) 以外の部位にける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付た継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）」によって検討した部位の条件・仕様によること。

☒D19以下は、すべて重ね継手とする。

☐継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法
外観検査 ☐有 ☐無、 引張試験 ☐有 ☐無、 超音波探傷試験 ☐有 ☐無
ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張り試験も併用し、1回の試験は 5 本以上とする。
(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする)

☒柱の帯筋（フープ）の加工方法は、☒H型（タガ型） ☐W型（溶接型） ☒S型（スパイラル型）とする。

☒コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京府「取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名 工事監理者が指定する機関
代行業者名 工事監理者が指定する業者
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠

☒材料 合板厚 12mmを標準とする。 ☐施工はJASS5による。

☒型枠存置期間

種類 部位	せ き 板		支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下	
セメントの種類 存置期間 間 気 の 温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種
	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種
材 令 (日)	15℃以上 5℃～15℃ 5℃未満	2 3 5 8	4 6 10 16	8 12 15 28	17 25 28 28	28 28 28 28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm2		設計基準強度の50%		設計基準強度の85% 100%	

注 1） 片ばり、底、スパン8.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注 2） 大ばりの支柱の張り代りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注 3） 支柱の張りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
注 4） 張りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注 5） 支柱の張りかえは、小ばりで行われてから、スラブを行う。一部に全部の支柱を取り払って、張りかえをしてはならない。
注 6） 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の張りかえを行わないこと。
注 7） 支柱の張りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

☐日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☐社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
☐鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

☐製作工場 ☐製作要領書 ☐工作図 ☐施工計画書
☐認定または登録工場（大臣認定 S H M R J グレード 都登録-11-12-13-ラング
☐材料規格証明書※、または試験成績書
☐鋼材 ☐高力ボルト ☐特殊ボルト ☐頭付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート

☐社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
(☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

☐現付検査 ☐組立・開先検査 ☐製品検査 ☐建方検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること

☐平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
☐日本建築学会「溶接工作規程、同解説{1}、{2}、{3}、{4}、{5}、{6}、{7}、{8}、{9}」
☐日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

☐溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
<input type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部（突合せ溶接） <input type="checkbox"/> すみ肉溶接部	外観試験（※）	% 個	% 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目録及び計測）
	超音波探傷検査	% 個	% 個	% 個	
	内貫検査	% 個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他	% 個	% 個	% 個	
<input type="checkbox"/>	外観試験（※）	% 個	% 個	% 個	

第三者検査機関名 (都知事登録 号)

第三者検査機関とは、建築業、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事に報告すること

☐高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを、産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置した発生した、赤さび状態であること。ただしショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

☐高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験 ☐要 ☐否 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否
☐一次締め後にマーキングを行い、二次締め後のすずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
☐トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンチールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装

☐防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、 ☐JIS K 5621、 ☐JIS K 5625、
を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、突状に応じて決定すること。

☐現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

☐ケイ酸カルシウム板 ☐吹付け岩綿

7. 設備関係 令第129条の2の4の事項

☒建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
☒建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び架結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
☐屋上から突出する水槽・煙突・冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に架結すること。
☐煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けた場合を除き、90cm以下とすること。
☐煙突で、屋内にある部分は、鉄筋に対するかぶり厚さは5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さ25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造もしくはコンクリートブロック造とすること。
☒建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。
☒建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☒管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☒管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等、有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☐法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
☐エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に架結されていること。
☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒必要に応じて記録写真を撮影保管すること。
☒鉄筋コンクリート構造配筋標準図にない場合は、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（日本建築学会）に依る。

位 置 国頭郡東村字川田内地
工 事 名 川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）縦速ろ過池
測量年月 図面
測 量 説 明
設 計 構造設計特記仕様
審 査 NO SCALE

課 長 課 長 補 佐 係

図面番号 25 葉 中 11 葉

鉄筋コンクリート構造配筋標準図ー(1)

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d

異形棒鋼の公称直径又は丸鋼の直径

D

部材の成

R

直径

@

間隔

r

半径

CL

中心線

L, l

部材間の内法距離

h, o

部材間の内法高さ

ST

あばら筋

HOOP

帯筋

SHOOP

補強帯筋

φ

直径又は丸鋼

丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ
異形棒鋼	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
記号	○	×	∅	●	◯	⊙	⦶

2. 使用構造材料

適用は●印を記入する。

(1) 地業工事

使用箇所	材 料	備 考
土間コンクリート下	<div><div>ア</div><div>砕石地業</div><div>割栗地業</div></div>	
基礎下 (べた基礎)	<div><div>ア</div><div>砕石地業</div><div>割栗地業</div></div>	
地中梁下	<div><div>ア</div><div>砂利地業</div><div>割栗地業</div></div>	

(2) コンクリート

・水セメント比55%以下

・空気量 4.5% (管理許容値 ±1.5%)

適用箇所	種 類	設計基準強度 (N/mm2)	スランブ cm	備 考
捨コンクリート	<div><div>普通</div></div>	Fc=15, (18), 21	12, 15, (18)	
土間コンクリート	<div><div>普通</div></div>	Fc=18, (21), 24, 27, 30	12, (15), 18	
基礎	<div><div>普通</div></div>	Fc=18, (21), 24, 27, 30	(12), 15, 18	水セメント比 55%以下
基礎梁	<div><div>普通</div></div>	Fc=18, (21), 24, 27, 30	(12), 15, 18	水セメント比 55%以下
柱、梁、床、壁	<div><div>普通</div><div>軽量</div></div>	Fc=18, (21), 24, 27, 30	(12), 15, 18	水セメント比 55%以下
押えコンクリート	<div><div>普通</div><div>軽量</div></div>	Fc=18, (21), 24, 27, 30	(12), 15, 18	

* 施工 (呼び強度) は +3N/mm2とする (暑中コンクリートはさらに+3N/mm2)

(3) 地盤の許容応力度又はくいの許容支持力

種類	長期	短期	備 考
<div><div>□</div><div>地盤の許容応力度</div></div>			
<div><div>□</div><div>くいの許容支持力</div></div>			

(4) コンクリートブロック (CB)

□A種

□B種

□C種

厚

□100,

□120,

□150,

□190,

(5) 鉄 筋

	材 料	径	使用箇所
異径鉄筋	<div><div>●</div><div>SD295 A</div></div>	D10~D16	図示
	<div><div>●</div><div>SD345</div></div>	D19以上	図示
	<div><div>□</div><div>SD390</div></div>		
丸 鋼	<div><div>□</div><div>SR245</div></div>		
溶接金鋼	<div><div>□</div></div>		

継手方法

D10~D16

重ね継手

D19 以上 (重ね継手

ガス圧接

)

(6) 鉄 骨

	材 料	使用箇所	備 考
鋼 材	<div><div>□</div><div>SS41</div></div>		
	<div><div>□</div><div>STKR41</div></div>		
	<div><div>□</div><div>SSC41</div></div>		
	<div><div>□</div><div>SM50</div></div>		
	<div><div>□</div><div>SM41</div></div>		

(7) ボルト

□高力ボルト

F10T (

□

M12,

□

M16,

□

M20,

□

M22

)

□普通

□特殊

□中ボルト

□アンカーボルト

□スタッドボルト

SS41

=φ

L=

mm

ナット (シングル、ダブル)

φ=

L=

mm

(8) 杭

支持層ー土質柱状図参照

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
<div><div>■</div><div>既 製 杭</div></div>	<div><div>□</div><div>PHC</div></div>	<div><div>□</div><div>PC</div></div>	<div><div>□</div><div>ディーゼルハンマ</div></div>
	<div><div>□</div><div>鋼管</div></div>	<div><div>□</div><div>RC</div></div>	<div><div>□</div><div>油圧ハンマ</div></div>
	<div><div>□</div><div>H鋼</div></div>	<div><div>□</div></div>	<div><div>□</div><div>その他</div></div>

杭仕様

施工計画書承認

□

有

□

無

杭施工結果報告書

□

有

□

無

試験杭

□

有

□

無

(

□

打ち込み

□

載荷

)

本

杭径 (mm)	杭種	設計支持力 (KN/本)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項
mm		KN/本	m	本	
mm		KN/本	m	本	
mm		KN/本	m	本	
mm		KN/本	m	本	
mm		KN/本	m	本	
mm		KN/本	m	本	

* 特記なき事項は杭芯図参照の事

3. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180 °	135 °	90 °	備 考
図				<div>スラブ筋、壁筋の末端がまたはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。</div> <div><div>キャップタイ</div><div>12d 以上</div></div> <div>* 片持スラブ上端筋の先端</div>
鉄筋の余長	4dかつ60mm以上	6dかつ60mm以上	12d 以上	
折曲げ内法寸法Rは SR24は3d以上、SD30、SD35は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90以下

図	使用箇所	鉄筋径 d	鉄筋の種類	折曲げ内のり R
	a) 帯筋あばら筋スパイラル筋	各 種	SR245	3d 以上
			SD295, SD345	4d 以上
	b) スラブ筋壁筋	φ16, D16 以下 φ19, D19 以上	各 種	5d 以上
				6d 以上
	c) a), b) 以外鉄筋	φ28 以下 D25 以下 φ32 以下 D41 以下	各 種	6d 以上
				8d 以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度の範囲 (kg/cm ³)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)	
		一 般 (L2)	下ば筋 (L 3)		
			小梁		スラブ
SR 245	210 以上 270 未満	35d フックつき	25d フックつき	15 cm フックつき	35d フックつき
	135 以上 210 未満	45d フックつき			45d フックつき
	210 以上 270 未満	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15 cm 以上	40d または 30d フックつき
SD 295 SD 345	135 以上 210 未満	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

(注) () 内は軽量コンクリートの場合を示す

継 手

1. 末端のフックは、定着および継手の長さには含まれない

2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

3. 直径の異なる材の継手は、細い方の材の継手長さとする

4. 直径が28mm以上の場合は、重ね継手としてはならない

5. 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

3mm 以下

0 > 80 °

d

H=1.4 ~ 1.6d

L=0.9 ~ 1.2d

偏心は d/10 以下

重ね継手 (下図のいずれかとする)

a ≥ 400

L1

L1

L1

1.5L 以上

L1

L1

L1

0.5L 以上

かぶり厚さの最小値 (JASS 5.10.1 表)

構造部分の種類		コンクリートの種類		普通コンクリート	軽量コンクリート
土に接しない部分	床スラブ・屋根スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり 仕上げなし	柱	30	30
				40	40
		屋内	屋外	40	40
				40	40
土に接する	柱・はり・床スラブ・耐力壁・布基 立上り部	50	50		
		50	60		
基礎・擁壁				70	80

かぶり厚さ

(5) 鉄筋のあき

異形鉄筋 1.5d 以上 (鉄筋間隔 2.5d 以上) 丸鋼 1.5d 以上 (鉄筋間隔 2.5d 以上)

粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25 以上

(6) 鉄筋のフック (aーf に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a. 丸鋼

b. あばら筋、帯筋

c. 煙突の鉄筋

d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)

e. 単純梁の下端筋

f. その他、本配筋標準に記載する箇所

柱

梁

上図の ● 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

4. 杭

(1) 杭頭要領詳細図

中詰コンクリート

基礎下端

φ

杭頭補強筋	
L	600mm

5. 基礎

(1) 直接基礎

捨フープ

45°

a

b

D1

d

ベース筋

a=D1+2dの範囲

主筋間隔は 200 以下

bの範囲

主筋間隔の 1.5 倍かつ 300 以下

CL

(2) 杭基礎

フックつき

20d 以上

かぶり厚さ

20d

φ

余長 4d

フック無し

20d

φ

35d

位 置	国 頭 郡 東 村 字 川 田 地 内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事 (土木建築) 縦速ろ過池		
測量年月		図 面 説 明	鉄筋コンクリート構造配筋標準図ー(1/3)
測 量			
設 計			NO SCALE
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 12 葉		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図－(2)

6. 地中梁

折曲げ起点は柱高の4/3をこえることを原則とする

床板がつく独立基礎 杭基礎の場合 (定着、継手)

* 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

折曲げ起点は柱成の4/3をこえる
ことを原則とする

* 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

Figure 1 illustrates the reinforcement layout for a beam-column joint. The diagram shows a cross-section of a beam with width b and effective depth d . It details the placement of top and bottom reinforcement bars, including lap lengths ($15d$) and development lengths ($L1$, $L2$). Key dimensions include the distance from the column face to the first lap ($L_0/4$) and the total lap length ($L_0/2$). Labels indicate '外端部' (outer end) and '内端部' (inner end) of the lap. A note specifies that the bending point is taken as $4/3$ of the column diameter.

折曲げ起点は柱成の4/3をこえる
ことを原則とする

(半固定として行政指導されることもあるので留意すること)

ベース下の施工を慎重にする

7.	柱
----	---

Figure 10 illustrates reinforcement details for beam-column joints. The left side shows two types of joints: '圧接継手' (Compression Joint) and '重ね継手' (Lap Joint). The right side shows a detail for the column head reinforcement, stating that hooks must be attached to the four corners of the column head.

圧接継手 (Compression Joint): The diagram shows a joint where the reinforcement is lapped. The lap length is indicated as '500以上' (500 or more) and '標準' (Standard). The joint is labeled '圧接継手'.

重ね継手 (Lap Joint): The diagram shows a joint where the reinforcement is lapped. The lap length is indicated as '500以上' (500 or more) and '標準' (Standard). The joint is labeled '重ね継手'.

柱頭の四隅の鉄筋にはフックをつけること (Hooks must be attached to the four corners of the column head): The diagram shows a column head with reinforcement bars. The bars are labeled 'L2'. The text indicates that hooks must be attached to the four corners of the column head.

継手の好ましい位置

柱頭の四隅の鉄筋にはフックをつけること

Figure 1 illustrates reinforcement details for slabs. (a) Section view showing top and bottom reinforcement bars with dimensions 150, 50, and 150. (b) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 2d and 10d. (c) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (d) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (e) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (f) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (g) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (h) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (i) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (j) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (k) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (l) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (m) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (n) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (o) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (p) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (q) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (r) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (s) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (t) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (u) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (v) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (w) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (x) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (y) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d. (z) Plan view of a square slab showing reinforcement layout with dimensions 15d and 10d.

①H型（タガ型）

①W型（溶接型）

⑧ S型（スパイラル型）

Lは中間部50d かつ 300 以上
末端部の添巻は1.5 巻以上
とする

注1. 第1帯筋は、梁面に入れる
注1. W型で現場溶接をする場合は
主筋の位置をさける

注3. フックおよび継手の位置は、交互とする
注4. フックのはかり方は、上図による

○柱脚で斜材となる ○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一 ○柱幅と斜材幅が異なる

○柱脚で斜材となる ○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一 ○柱幅と斜材幅が異なる

注 1. 1.5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100 以下とする

注2. ①の鉄筋は2-D13 かつ、2本の一段太い鉄筋とする

[illegible]

帯筋より1サイズ太く
又は同サイズ2本

[illegible]

$a=1.7 \times$ (主筋直径)

8. 大梁、小梁、片持梁	
(1) 定着	つりあげ筋

Figure 1 illustrates the reinforcement details for beam-column joints. Part (a) shows a top view of a joint between a main beam (大梁) and a column. It details the reinforcement layout for a general floor (一般階) and the top floor (最上階). Key dimensions and labels include: $Q/4$, $15d$, Q , $15d$, $L1$, $L2$, and the instruction: "折曲げ起点は柱成の4/3をこえることを原則とする" (The starting point of bending is原则上 to be beyond 4/3 of the column length). A note at the top right states: "(梁主筋を折り曲げるとき)" (When bending the main reinforcement of the beam). Part (b) shows a side view of the joint, detailing the column width (柱幅), the reinforcement length $L2$, a hook (フック付), and a dimension of 150 or more (150以上). The dimension D is also indicated.

* 柱幅が大きくて、直線部だけで
L2 がとれる場合でも柱中心線を
こえて中間折曲げテール長 150
以上又は 180° フック付とする

補強あばら筋は小梁主筋側に必ず入れること

 は継手の好ましい位置

×印は幅止め筋

つり上げ筋は、一般のあばら筋より、1サイズ太い鉄筋か、又は、同サイズを2本巻きとする

位 置	国頭郡東村字川田内地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月	図 面 説 明	鉄筋コンクリート構造配筋標準図-（2/3） NO SCALE	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 13 葉		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図－(3)

(4) あばら筋の型

③ ④ ⑤

(イ) 原則として ④ のフック先曲げとする。逆し型梁で ⑤ T型梁で ⑥ 又は ⑦ とすることができる

(ロ) 原則として3本組は ④ 4本組は ⑥ とする

(ハ) フックの位置は ③ にあつては交互。④ にあつてはスラブ側とする

(ニ) フックのはかり方は下図とする

※鉄筋コンクリート構造配筋標準図－(1) 参照

(5) 幅止め筋の本数、加工

	D<600	不要	
腹筋	600≤D<900	2-D10(9φ)	1段
	900≤D<1200	4-D10(9φ)	2段
	1200≤D	D10(9φ)@300	以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000	以内で割り付ける	

9, 柱、梁増打コンクリート補強 (使用するときには設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

(1) 柱

300 a 100 ≤ a ≤ 400

D10@200

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

●印は補強筋

D10@200

ハッチ部分の面積 A m ²	A<500	500 ≤ A<1000	1000 ≤ A<1500
補強タテ筋	3-D16	4-D16	6-D16

(2) 梁

D16 D10@200

D10 ピッチは、梁の腹筋と合せる。

巾止筋

300 a

2-D16 又は、D16-@300 以下

D10@200

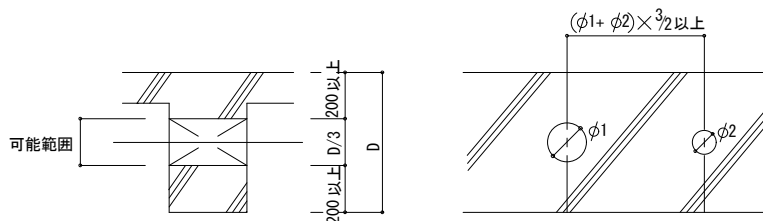
注 aは100 ～ 300程度。

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

10, 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

但し、やむを得ない場合は、監督員の承諾を受けて、孔の中心位置の限度を、柱及び直交するはりの面から原則として1.2D以上離れた位置とすることができる。



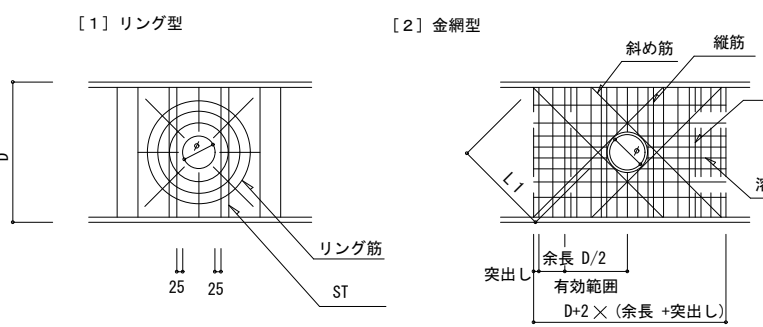
(2) 鉄筋形標準配筋

80<φ≤100	折筋 2-(2-D13) ST 2-D13	
100<φ≤150	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 4-D13 横筋 2-(2-D13)	
150<φ≤250	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 3-D13	
250<φ≤350	斜筋 4-(2-D16) 縦筋 ST 4-D13 横筋 2-(2-D16) 上下縦筋 ST 5-D13	

(使用するときには、設計者及び工事監理者と打合せのこと)

(3) 既製形

[1] リング型 [2] 金網型



11, 床板

(1) 定着および継手

③ 一般床スラブ

⑤ 片持ちスラブ

受筋 D13 以上

下端筋は 25d 以上

継手位置は原則として下表による。

	標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

(2) 屋根スラブの補強

③ 補強筋は各 3-D13 又はスラブ主筋の同一径で Q=1500 とし、上端筋の下に配筋する

⑤ *の箇所(入隅)は各階補強する

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

補強筋の定着

一般床版配筋

出隅部分補強配筋

Q1 ≥ Q2 とする

出隅部分補強配筋

出隅部

Q1/2 L1

Q1/2

出隅受け部

Q1 ≥ Q2 とする

出隅受け部配筋

(4) 床板開口部の補強(開口の径 500 以上の場合)

周囲補強筋

斜め補強筋

孔と孔のへりあき 以上

注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

床板厚さ D	周 围	斜 め
D ≤ 150	各 2-D13	各 1-D13
150<D ≤ 200	各 2-D13	各 2-D13
200<D ≤ 300	各 2-D19	各 2-D16

(5) 床板段差

【端部】

D13 L D 以下

20 L 1

【中央】

500 500 D 以下

D13 L 20

【端部】

D16 L D 以下

H D ≤ H ≤ 20

L 1 D10-@150 20

【中央】

500 500 D 以下

D16 L 1 D16 20

(6) 土間コンクリート

軽作業の土間

折曲 D10-@200

D10-@200

600 D

間仕切壁との交叉部

D13

300 50 D

(7) 釜場

1200×600 以下

2-D16

D10-150@

D13-200@

ダブル

2-D16

250 200

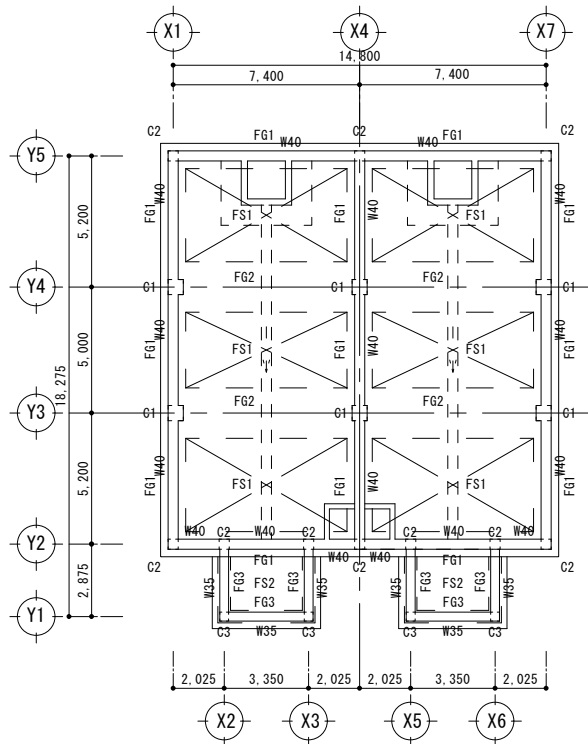
(8) 打継ぎ補強

●設計配筋間隔の 1/2 ピッチ 長さ 2L1 以上

●無筋部分 D10-@200 長さ 800 以上

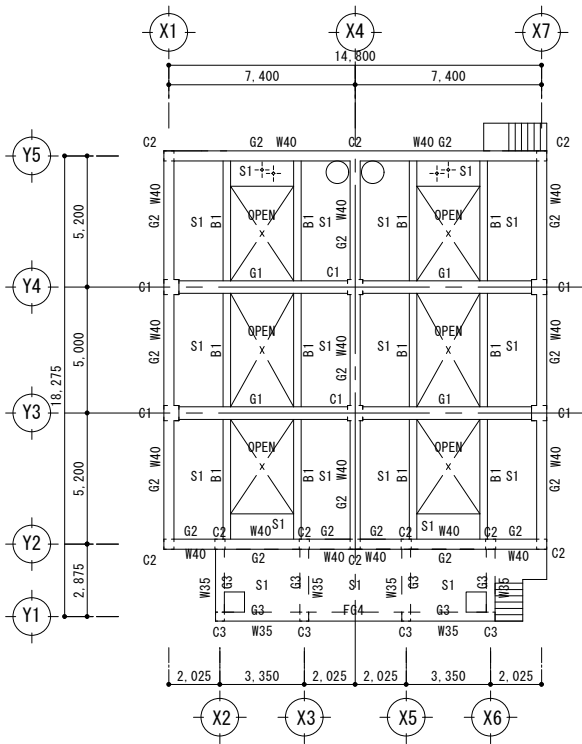
位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築) 縦速ろ過池		
測量年月		図 面	鉄筋コンクリート構造配筋標準図－(3/3)
測 量		説 明	
設 計		NO SCALE	
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 14 葉		

緩速ろ過池配筋図（1）



基礎伏図

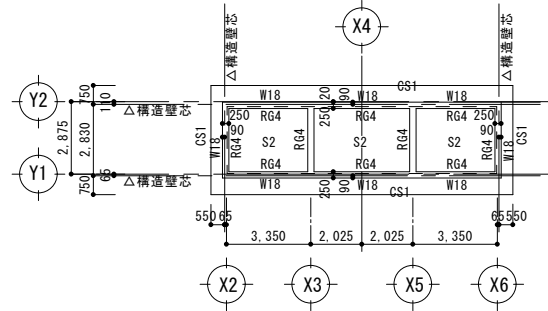
S=1/150 (A1)
S=1/300 (A3)



1階梁伏図

S=1/150 (A1)
S=1/300 (A3)

見上げ図



R階梁伏図

S=1/150 (A1)
S=1/300 (A3)

見上げ図

地中梁リスト (A1)S=1/40 (A3)S=1/80					
符 号	FG1	FG2		FG3	FG4
位 置	全断面	外端、中央	内端	全断面	全断面
断 面					
B x D	1,000 x 500	2,000 x 500	2,000 x 500	500 x 500	350 x 1,200
上端筋	6-D22	10-D25	10-D25	4-D19	6-D19
下端筋	6-D22	10-D25	24-D25	4-D19	6-D19
かぶり	上端:70mm 下端:80mm	上端:70mm 下端:80mm	上端:70mm 下端:80mm	上端:70mm 下端:80mm	上端:70mm 下端:80mm
S T P	4-D13@250	6-D13@150	6-D13@150	2-D13@250	2-D13@250
腹 筋	—	—	—	—	4-D13

特記:巾止メ筋……マD10@1,000

大梁リスト (A1)S=1/40 (A3)S=1/80					
符 号	G1	G2	G3	G4	
位 置	外端、中央	内端	全断面	全断面	全断面
断 面					
B x D	500 x 700	500 x 700	400 x 700	350 x 500	250 x 500
上端筋	4-D25	10-D25	3-D22	3-D19	2-D19
下端筋	4-D25	4-D25	3-D22	3-D19	2-D19
かぶり	上端:70mm 下端:70mm	上端:70mm 下端:70mm	上端:70mm 下端:70mm	上端:70mm 下端:70mm	上端:70mm 下端:70mm
S T P	2-D13@150	2-D13@150	2-D13@250	2-D13@250	2-D10@200
腹 筋	2-D13	2-D13	2-D13	—	—

特記:巾止メ筋……マD10@1,000

小梁リスト S=1/40	
符 号	B1
位 置	全断面
断 面	
B x D	300 x 600
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
かぶり	上端:70mm 下端:70mm
S T P	2-D10@200
腹 筋	2-D10

特記:1)巾止メ筋……マD10@1,000

柱リスト (A1)S=1/40 (A3)S=1/80					
階	符 号	C1	C2	C3	
	位 置	全断面	全断面	全断面	
BF1	断 面				1 断 面
	Dx x Dy	600 x 600	400 x 400	350 x 350	
	主 筋	12-D22	8-D16	8-D16	
	かぶり	70mm	70mm	70mm	
	HOOP	3-3-D10@100	2-2-D10@100	2-2-D10@100	
	D. HOOP	—	—	—	
					S=1/20

スラブリスト							
符 号	床 厚	位 置	短辺方向		長辺方向		備 考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	250	上端筋	D13@250		D13@250		ダブル モチアミ配筋
		下端筋	D13@250		D13@250		
S2	150	上端筋	D10, D13@200		D10, D13@200		ダブル モチアミ配筋
		下端筋	D10@200		D10@200		
CS1	150	上端筋	D10, D13@200		D10@200		片持ちスラブ
		下端筋	D10@200		D10@200		
FS1	500	上端筋	D19@250		D19@250		
		下端筋	D19@250		D19@250		
FS2	500	上端筋	D16@250		D16@250		
		下端筋	D16@250		D16@250		

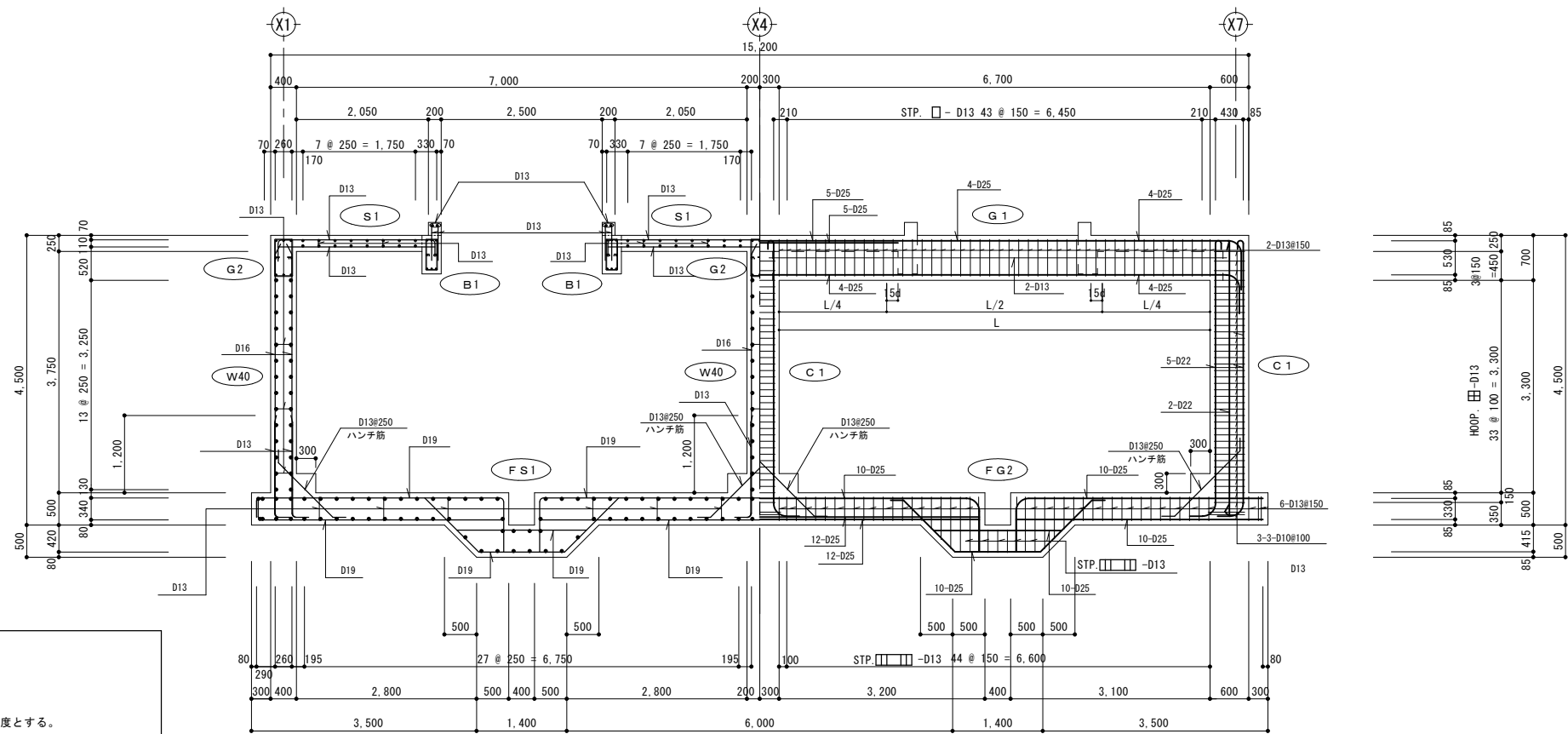
※特記無き限り、短辺方向を主筋方向とする。

壁リスト (A1)S=1/40 (A3)S=1/80			
符 号	W18	W35	W40
断 面			
壁 厚	180	350	400
タテ筋	D13@200 ダブル	D16@250 ダブル	D16@250 ダブル
ヨコ筋	D13@200 ダブル	D16@250 ダブル	D16@250 ダブル
開口 補強筋	—	—	—
端部曲げ補強	—	—	—
備 考			

特記：壁リストは鉛直方向を示す。

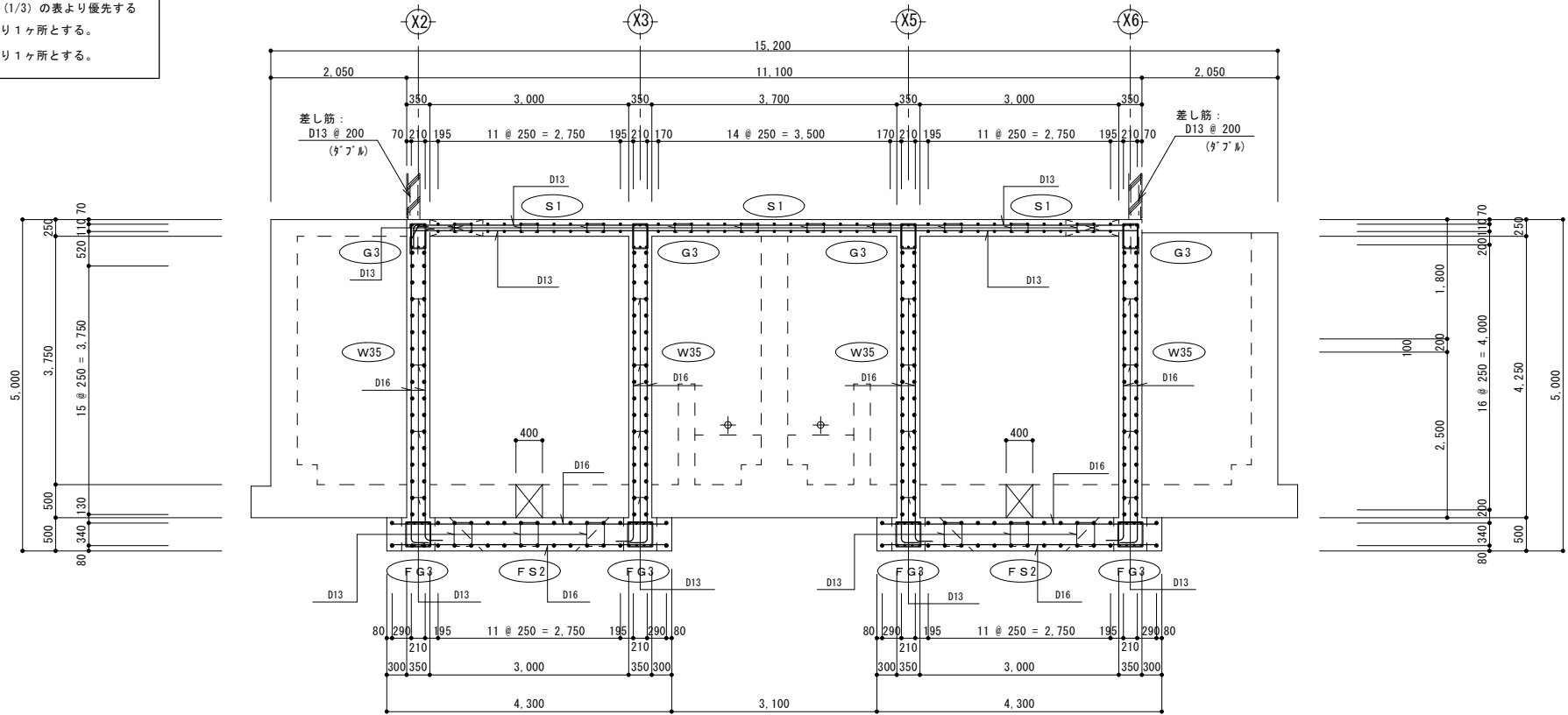
位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図 面 説 明	配筋図（1/11） 図示による
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 15 葉		

緩速ろ過池配筋図(1)

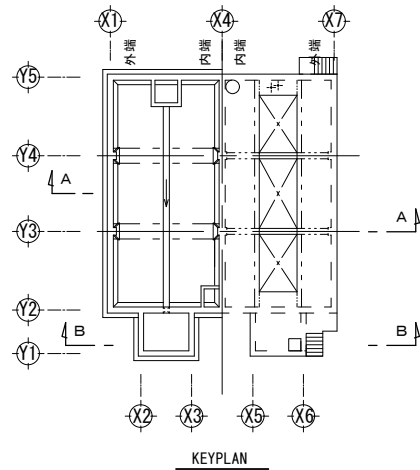


A - A 断面図

- ＜ 共 通 事 項 ＞
- 柱、梁の特記なき限り下記による。
1. 腹筋は各2-D13とする。
 2. 巾止め筋はD13-1, 000@程度とする。
 3. 仕口内フープは口-D10@150とする。
- (注記)
- ※ かぶり厚さは土部80mm, 水部・他部は70mmとし
鉄筋コンクリート構造配筋標準図-(1/3)の表より優先する
- ※ 組立筋 : [] - D13 を 1.00m²あたり1ヶ所とする。
- ※ 巾止筋 : ▮ - D13 を 1.00m²あたり1ヶ所とする。

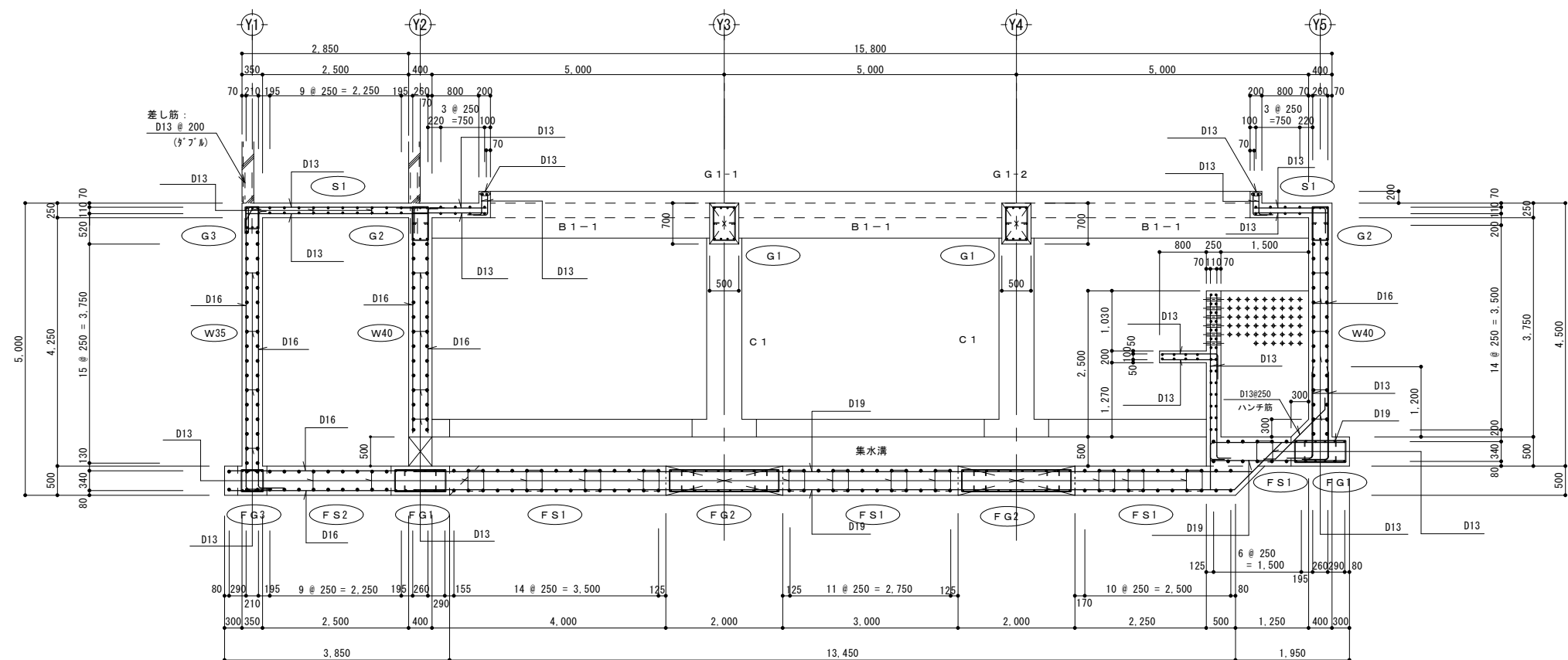


B - B 断面図

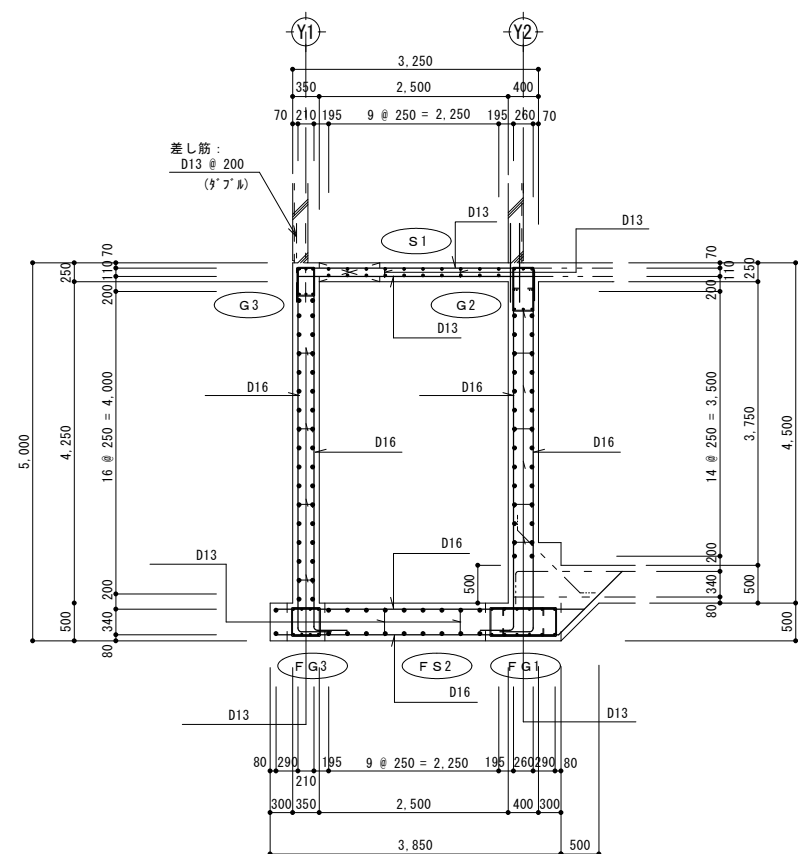


位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)緩速ろ過池		
測量年月		図 面 説 明	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 16 葉		

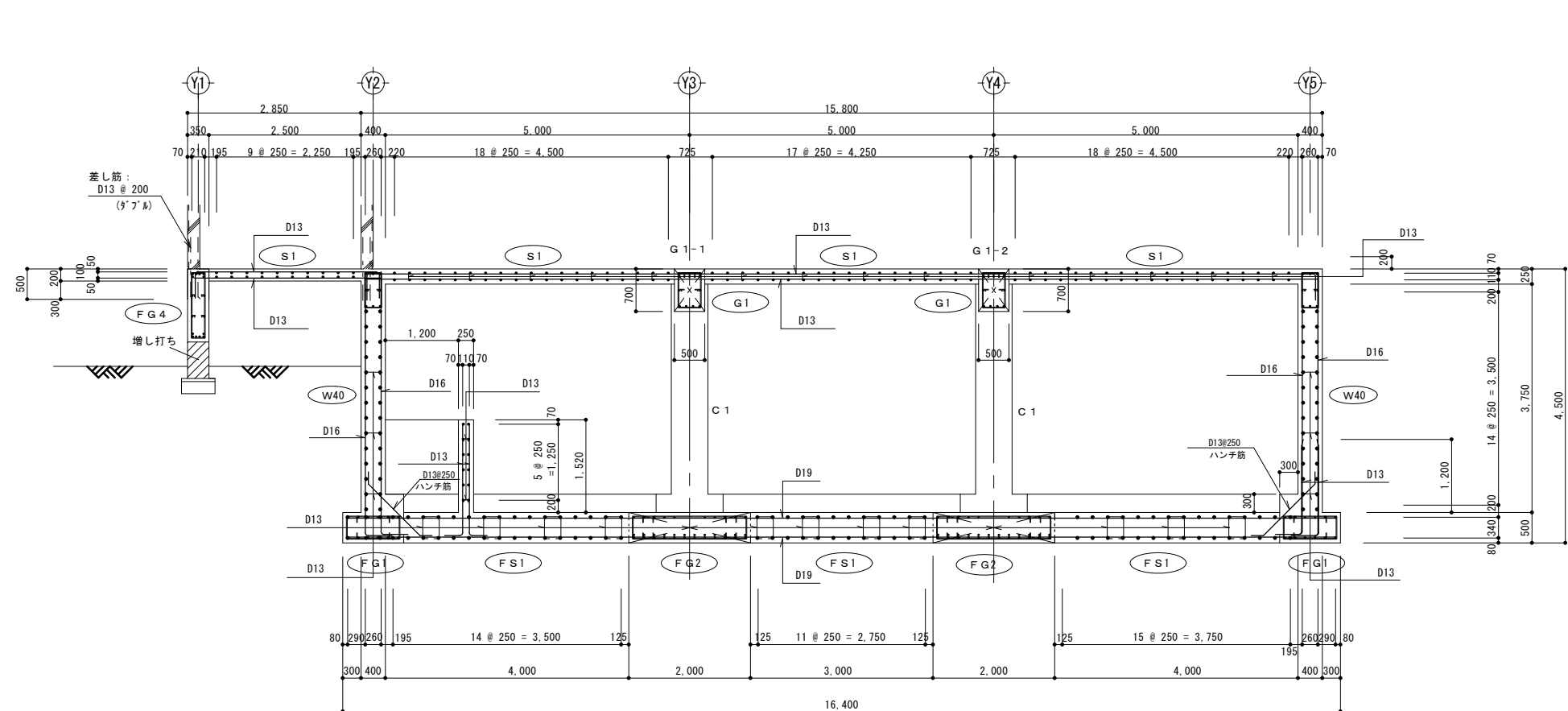
緩速ろ過池配筋図(2)



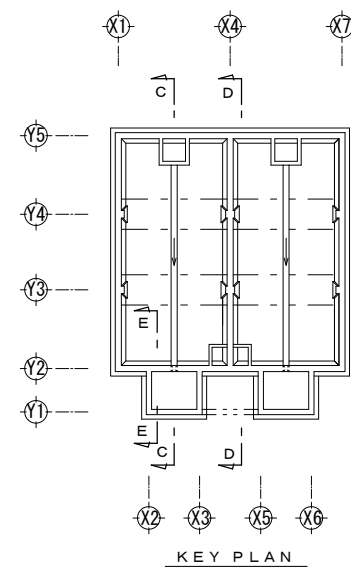
C - C 断面图



E - E 断面图

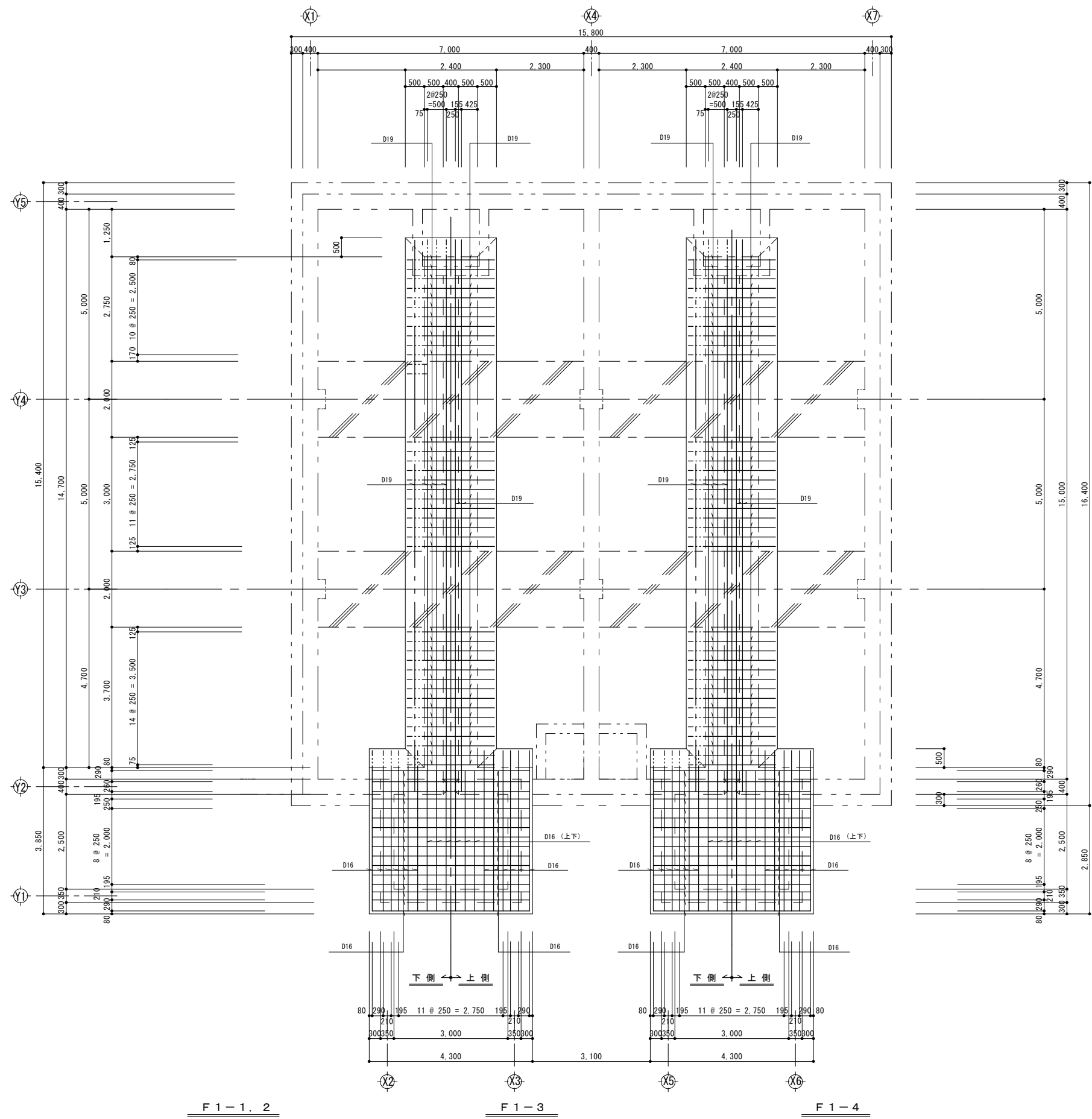


D — D 断面图

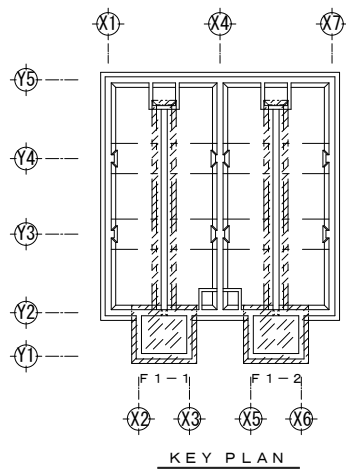


位 置	国頭郡東村字川田内地		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月	図 面 説 明	配筋図（3/11） S=1/50（A1）S=1/100（A3）	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 17 葉		

緩速ろ過池配筋図（3）

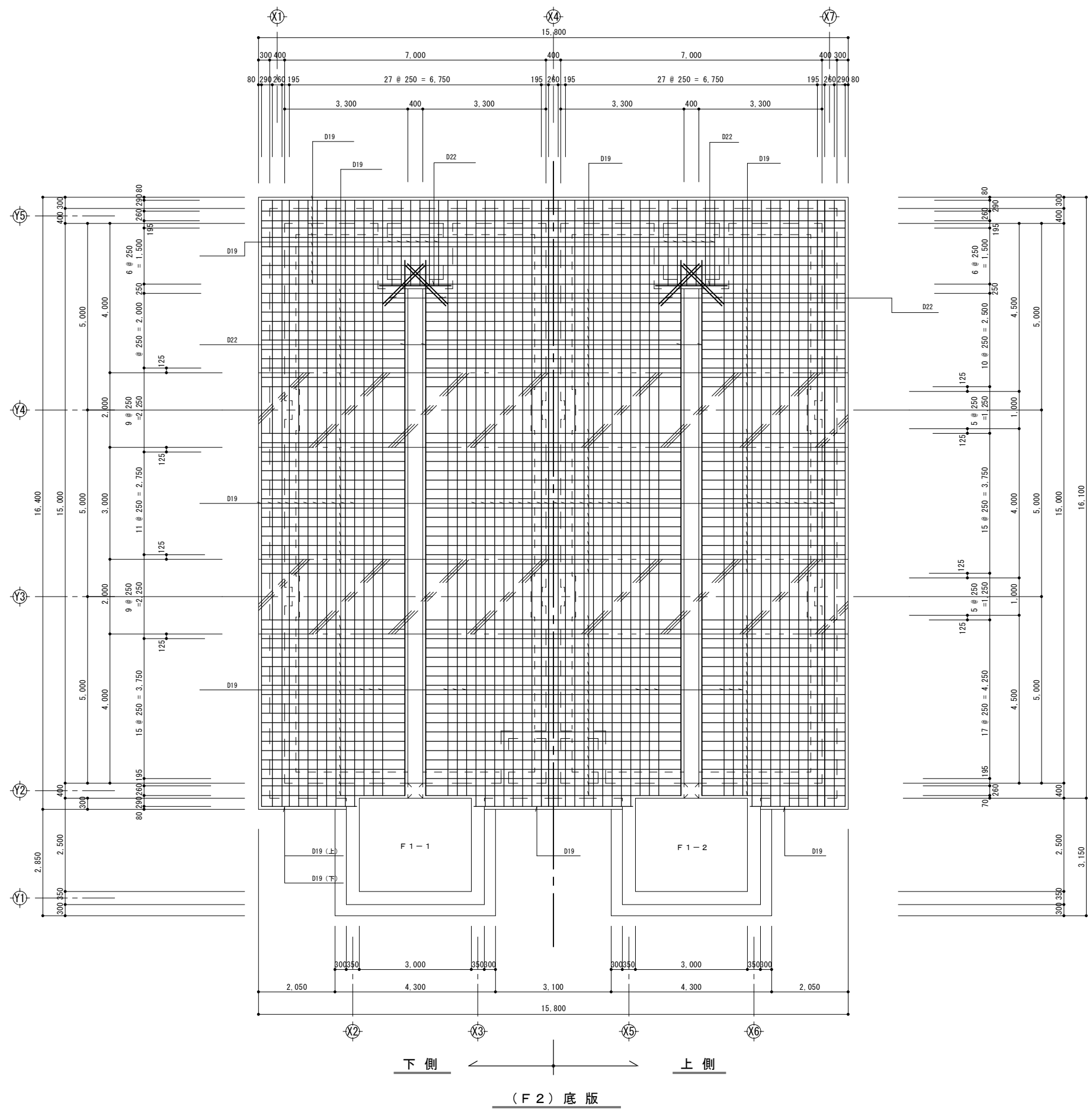


(F1) 底版



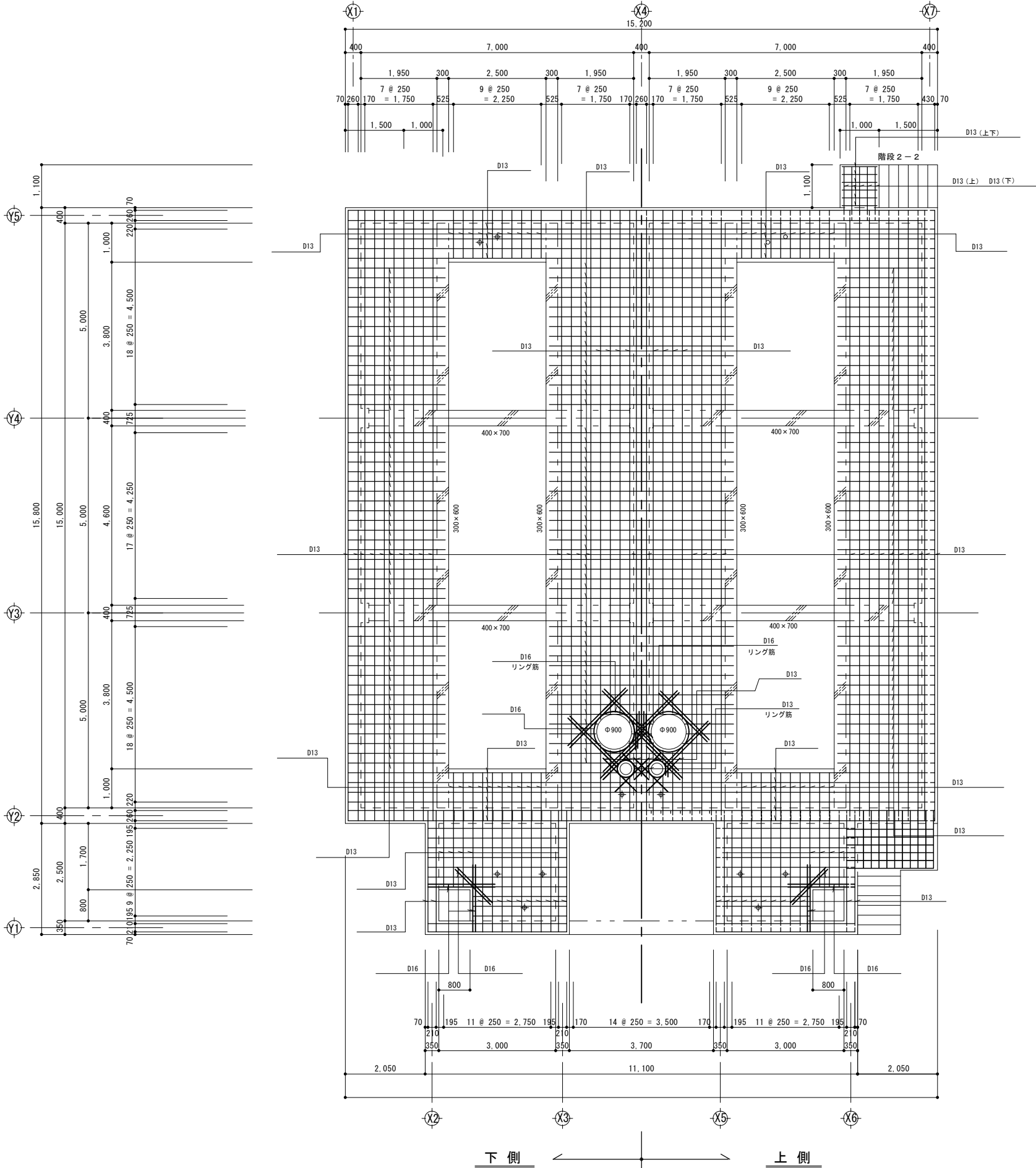
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 18 葉		

緩速ろ過池配筋図(4)



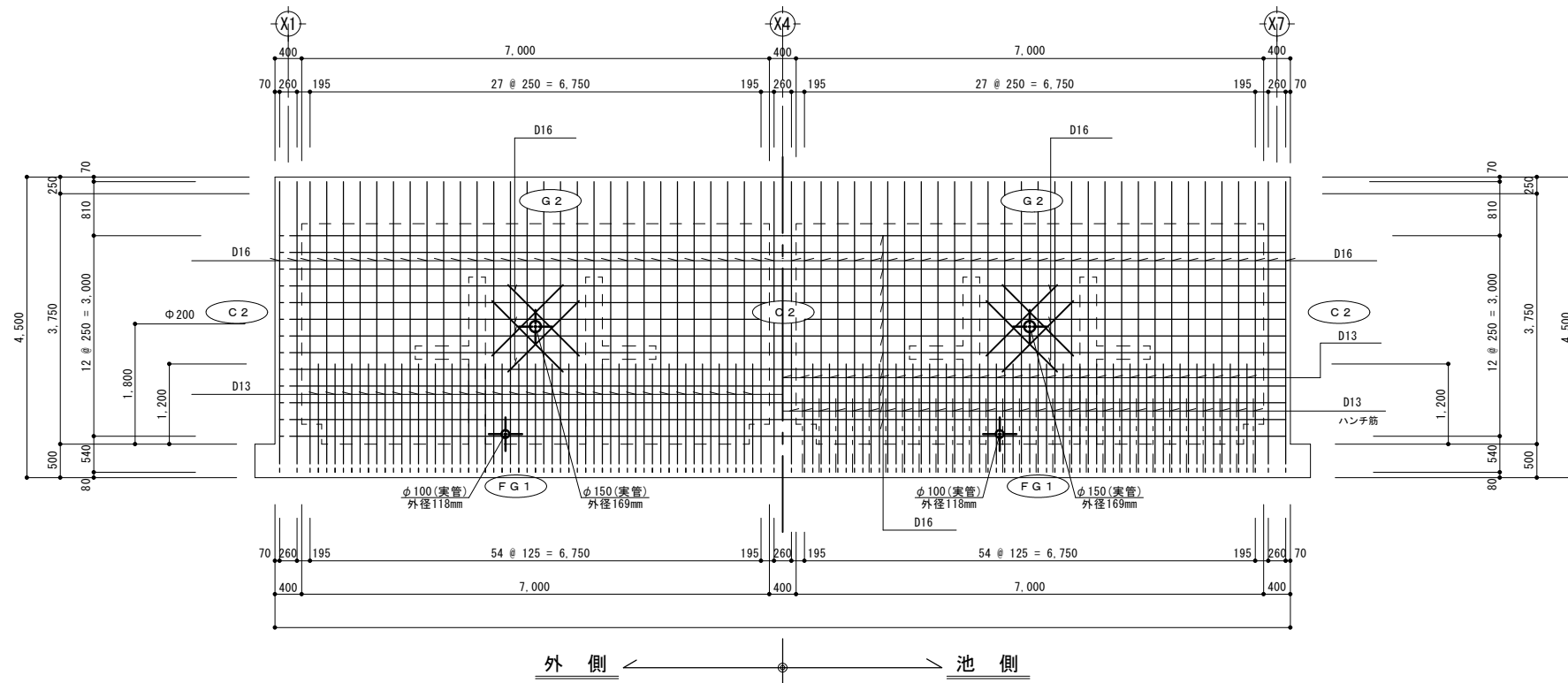
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	配筋図(5/11) S-1/60 (A1) S-1/120 (A3)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 19 葉		

緩速ろ過池配筋図 (5)

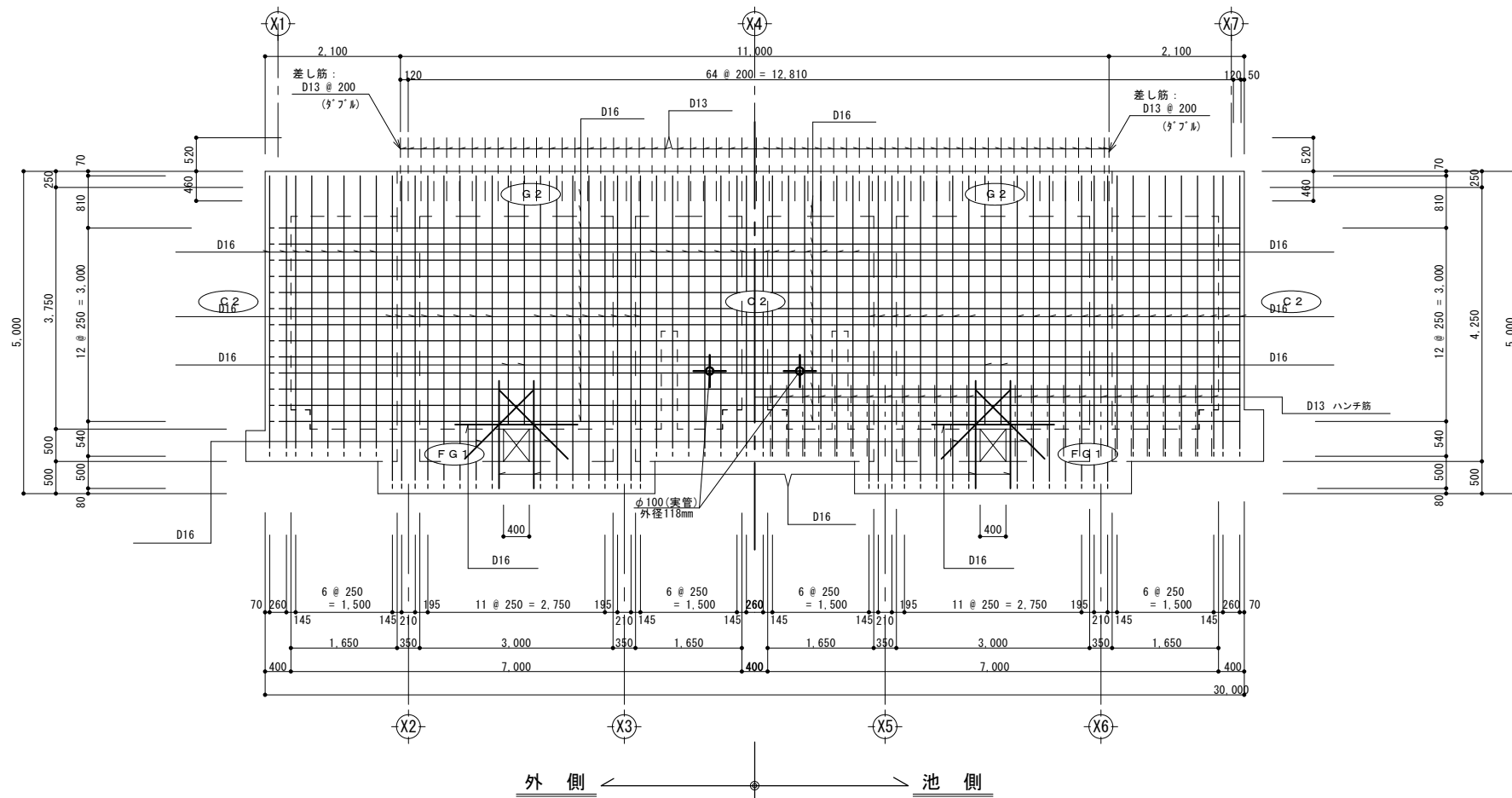


位 置	国頭郡東村字川田内地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月	図 面 説 明	配筋図（6/11） S-1/60 (A1) S-1/120 (A3)	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図 面 番 号	25	葉 中	20

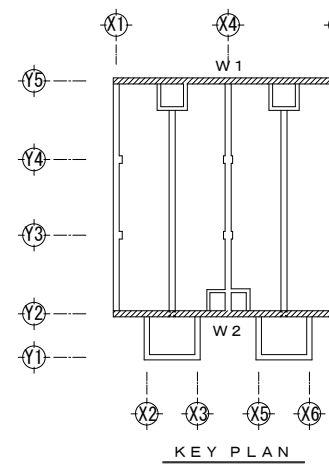
緩速ろ過池配筋図(6)



(W1) 壁 ※特記以外の壁はW40とする

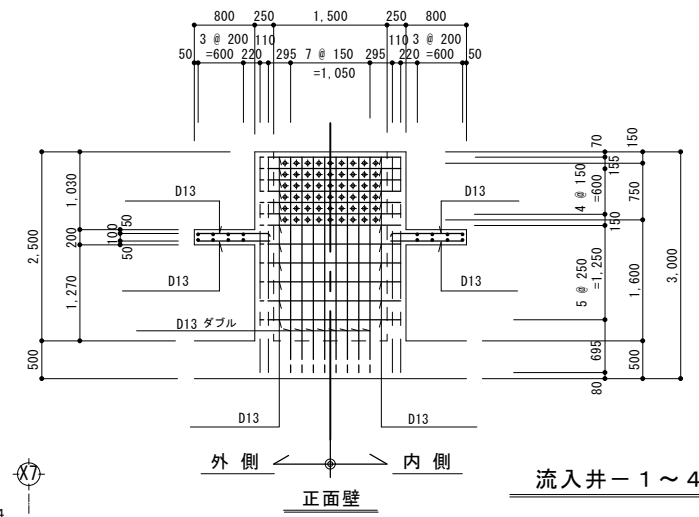
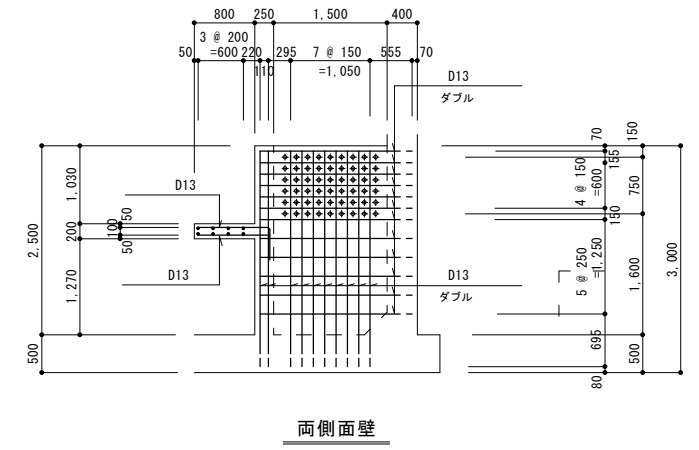
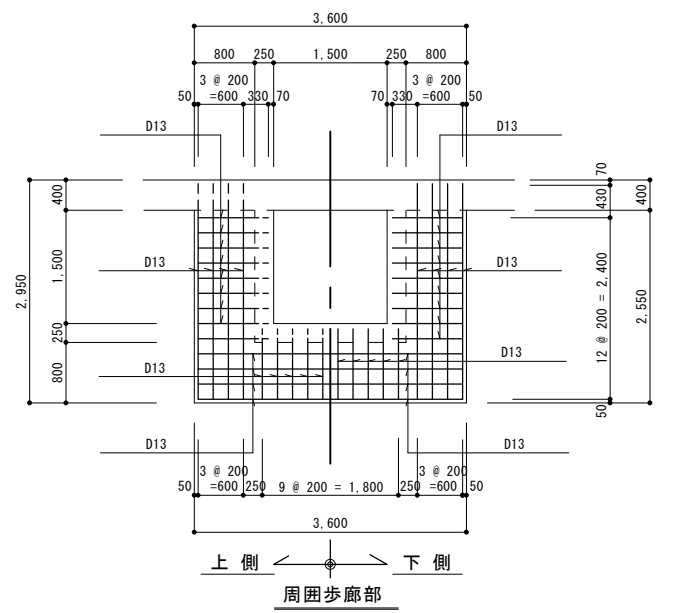
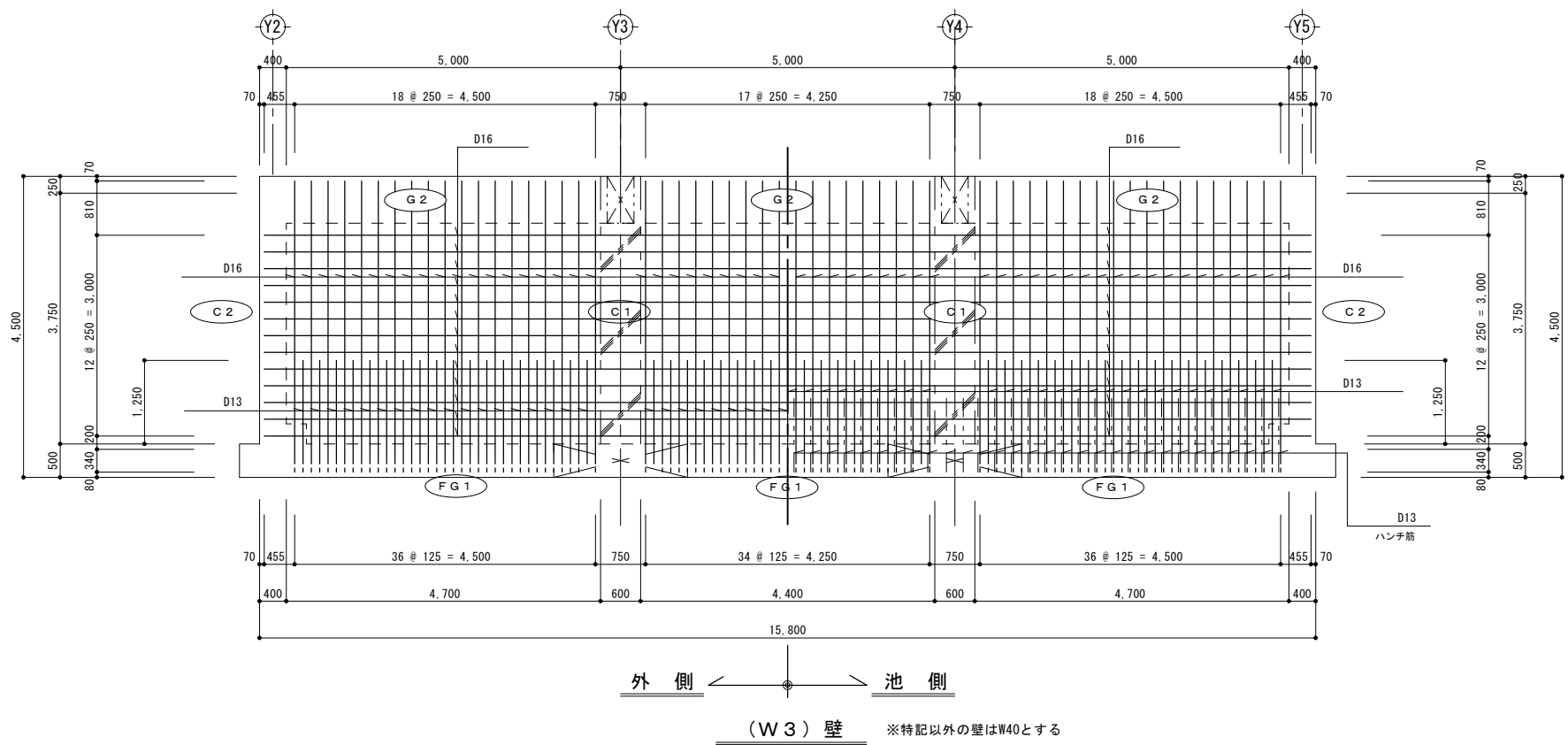


(W2) 壁 ※特記以外の壁はW40とする

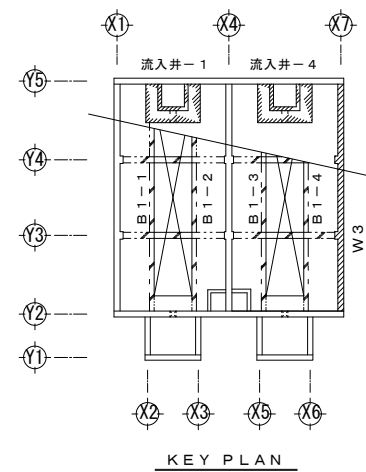
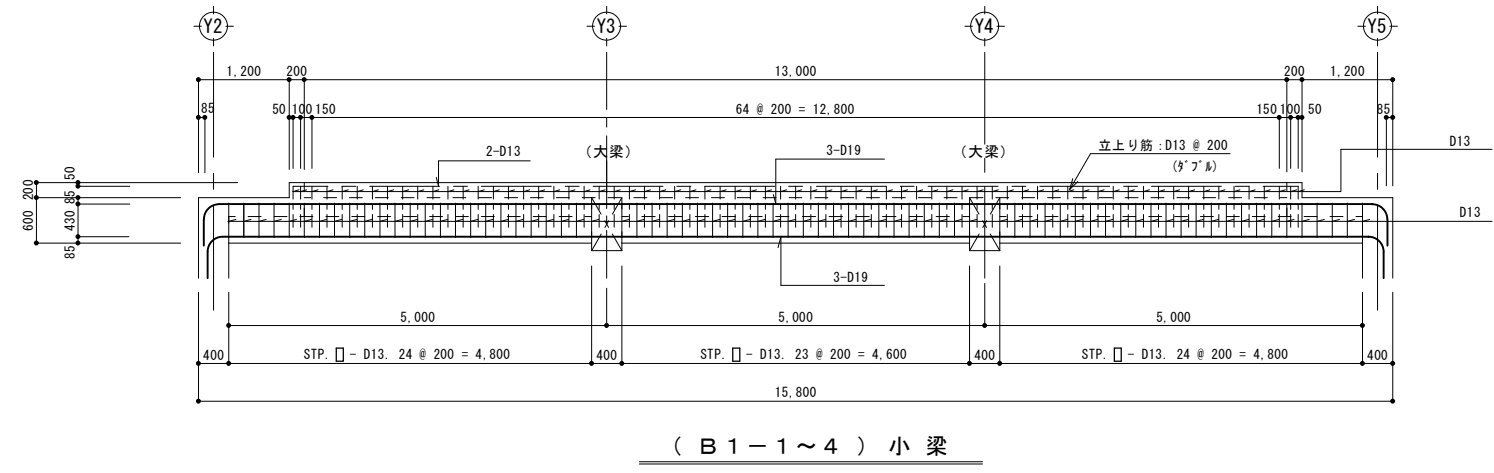
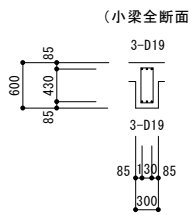


位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築) 緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	配筋図 (7/11)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 21 葉		

緩速ろ過池配筋図(7)

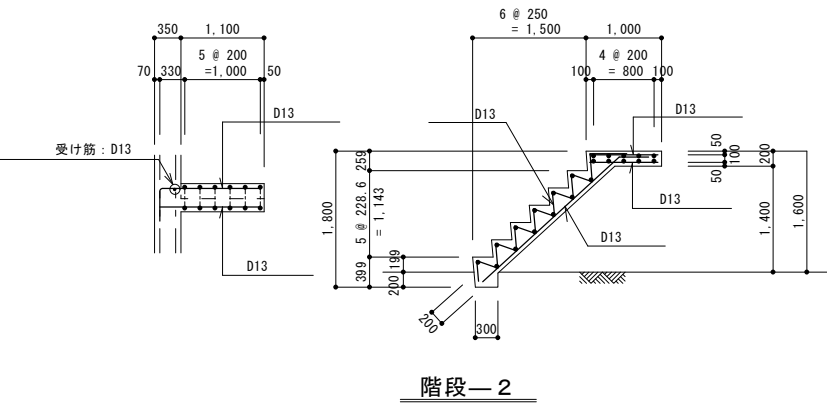
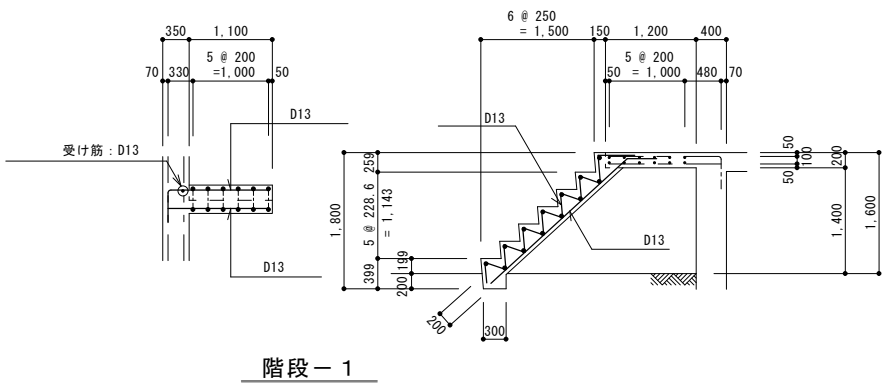
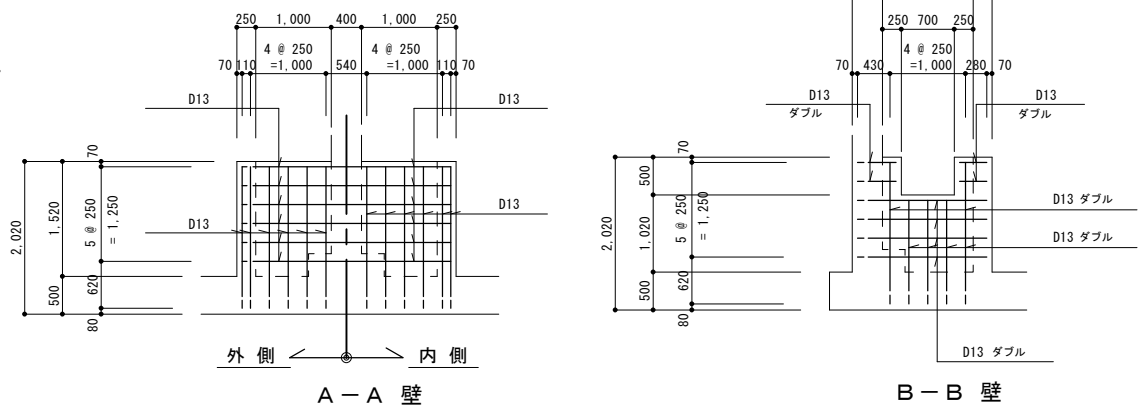
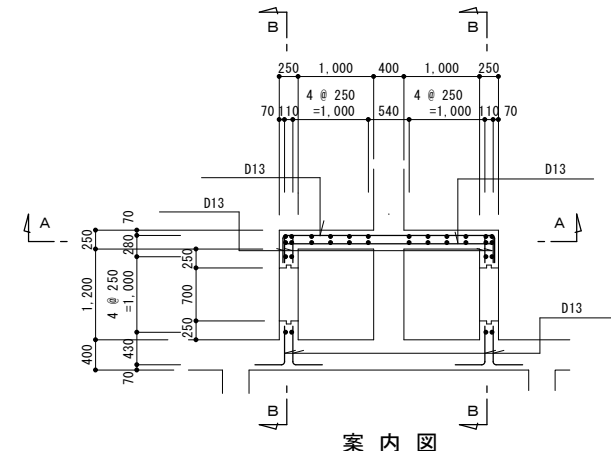
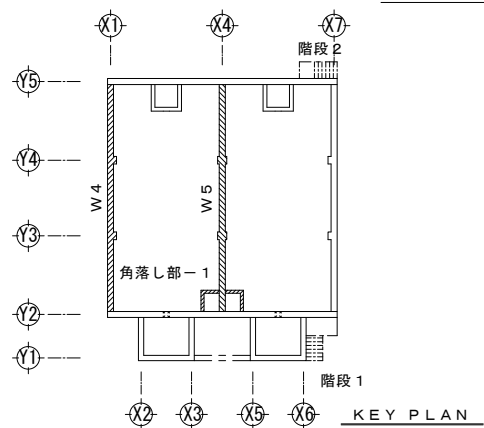
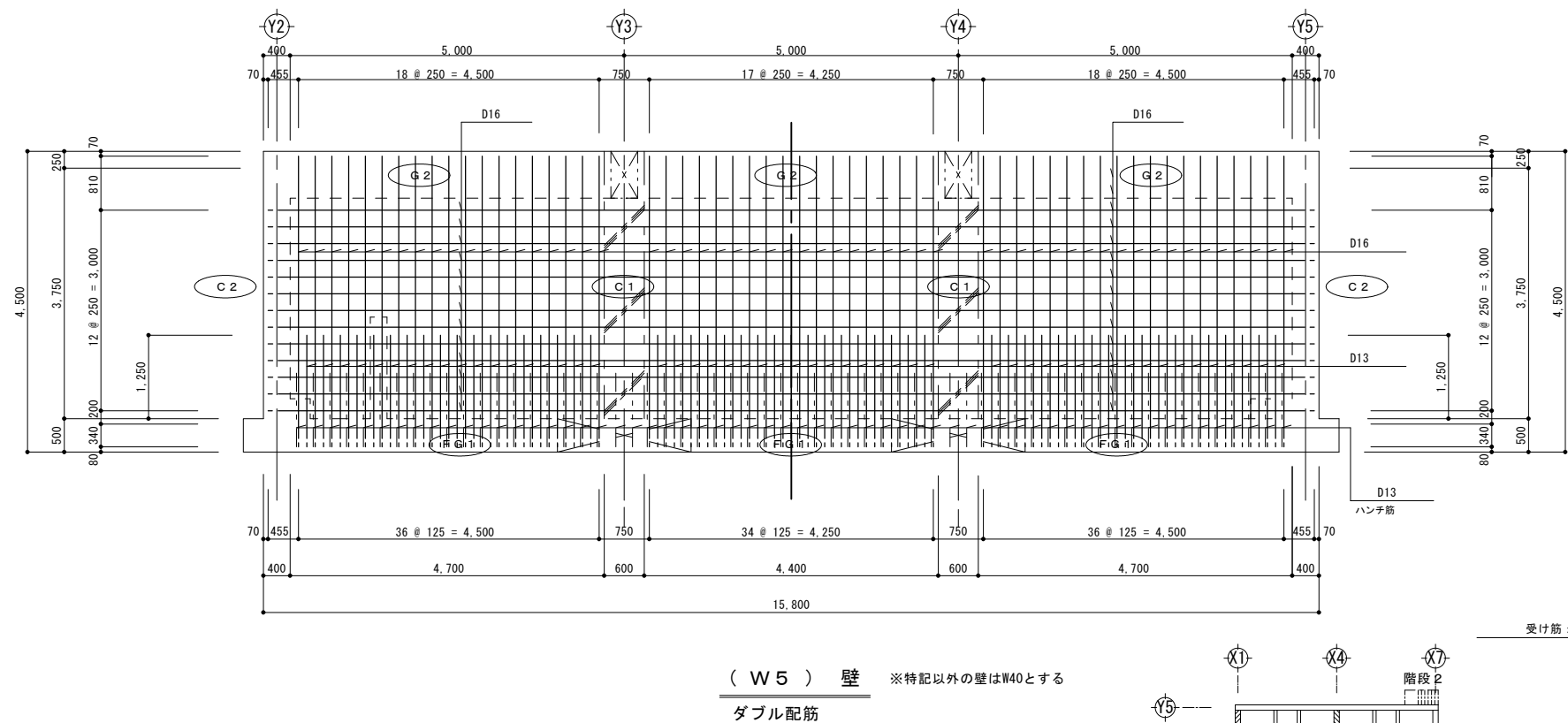
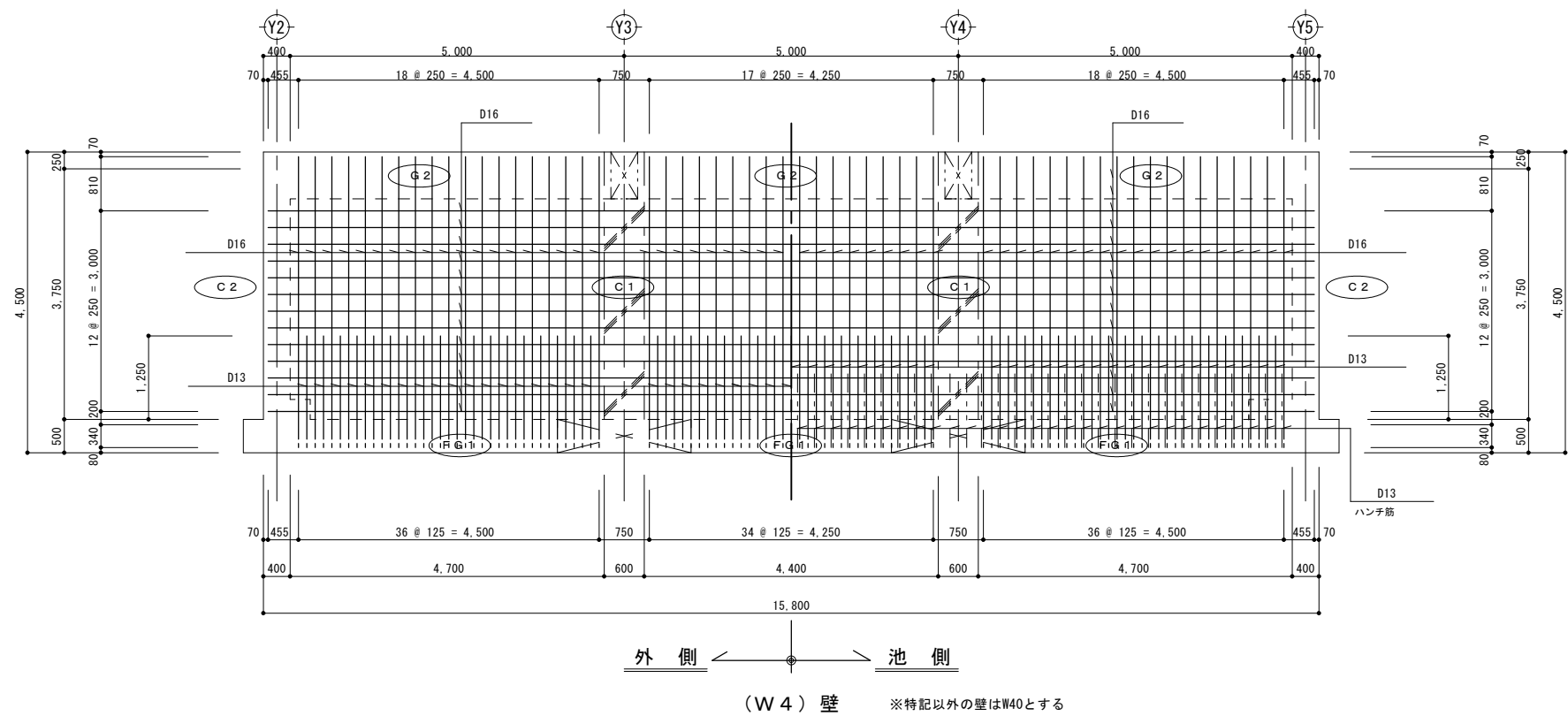


流入井-1~4



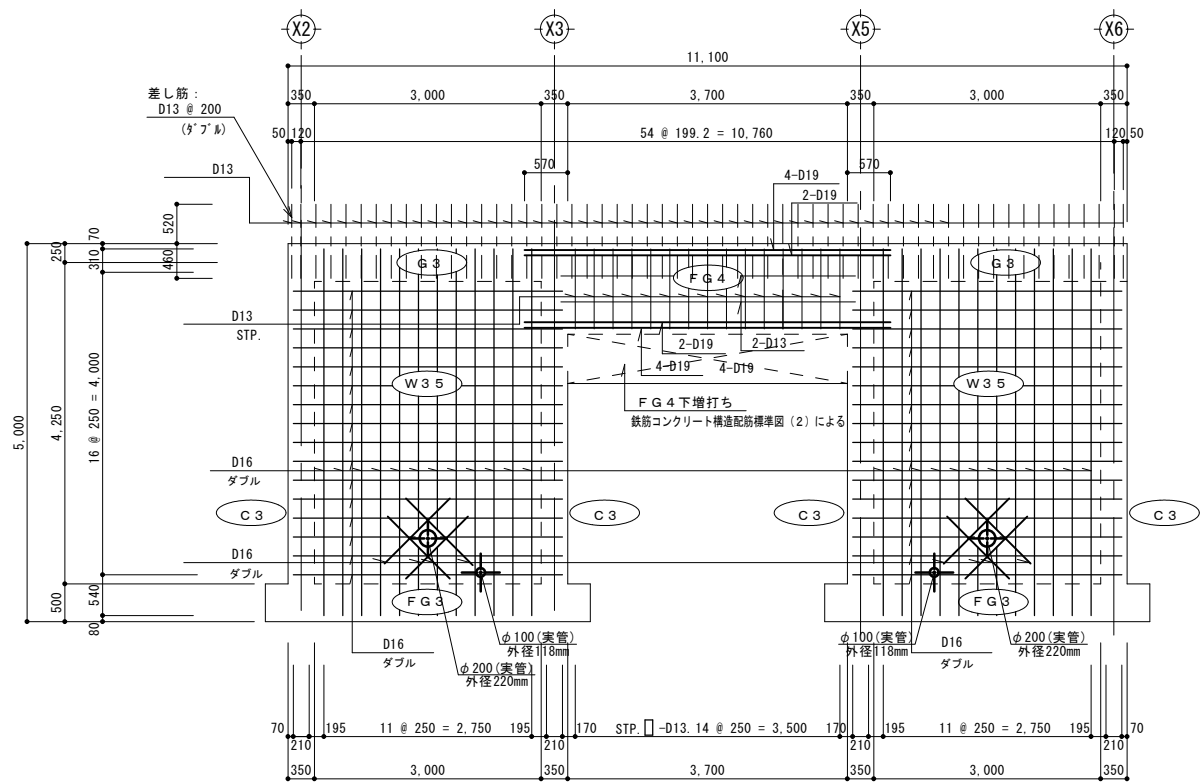
位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	配筋図（8/11）
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 22 葉		

緩速ろ過池配筋図(8)

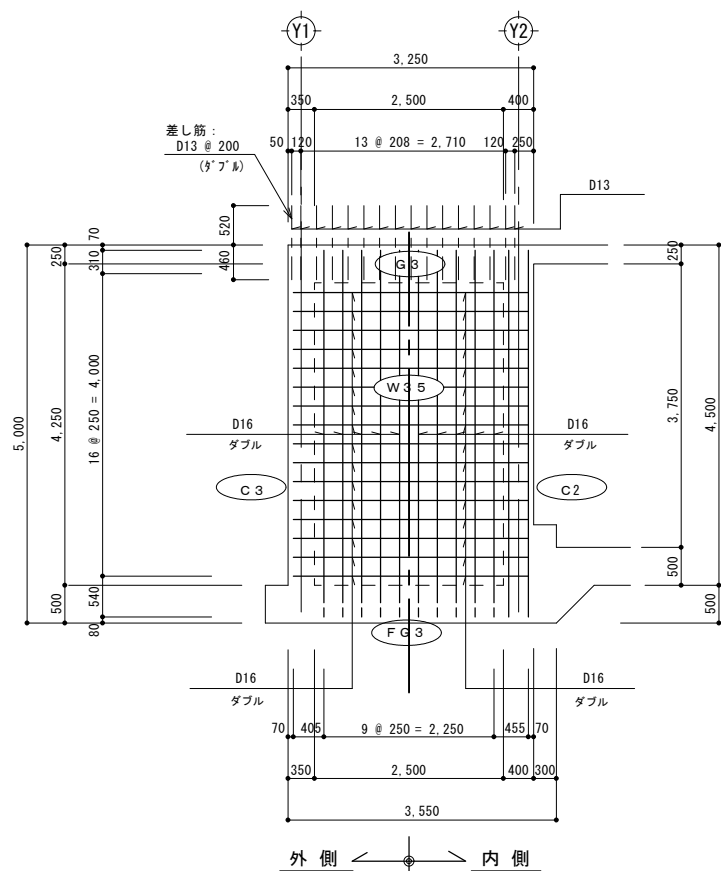


位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	
設計		配筋図(9/11)	
審査		S-1/50 (A1) S-1/100 (A3)	
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 23 葉		

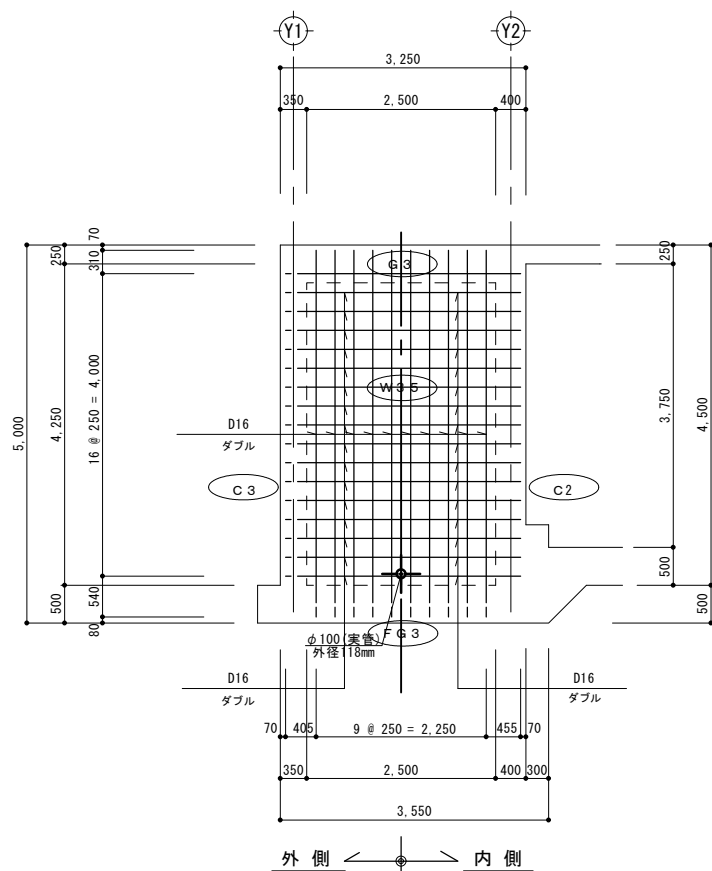
緩速ろ過池配筋図(9)



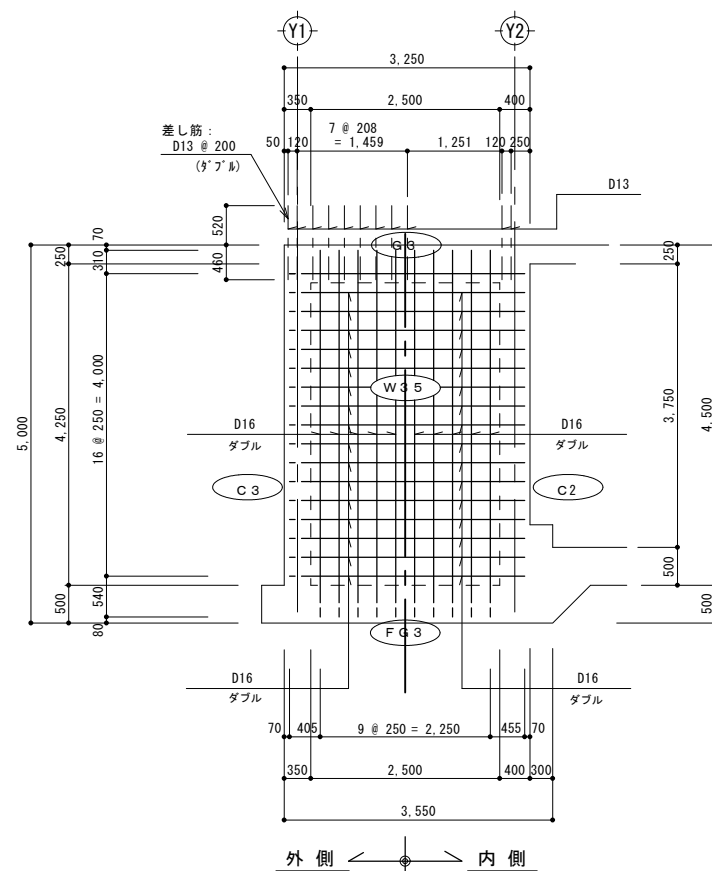
(W6) 壁



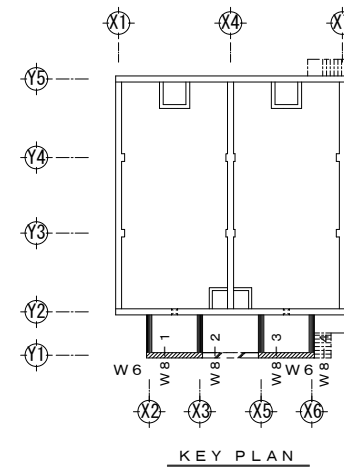
壁
(W8-1)



壁
(W8-2.3)



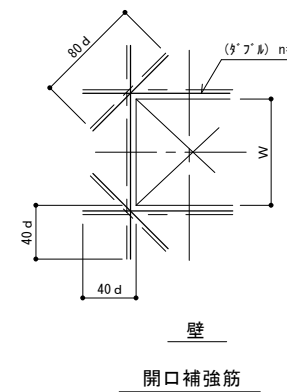
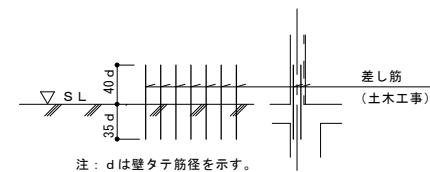
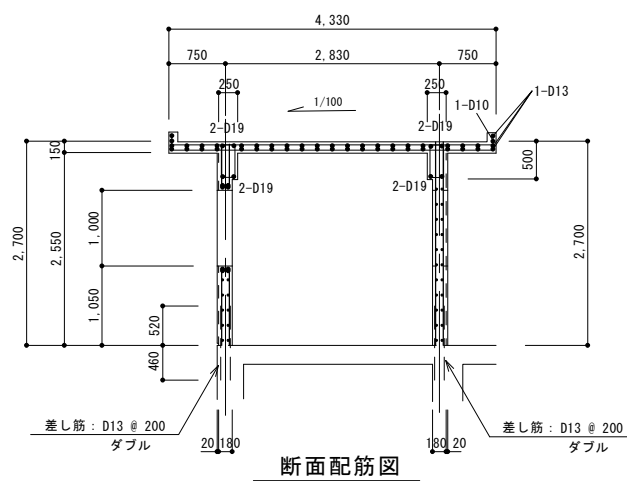
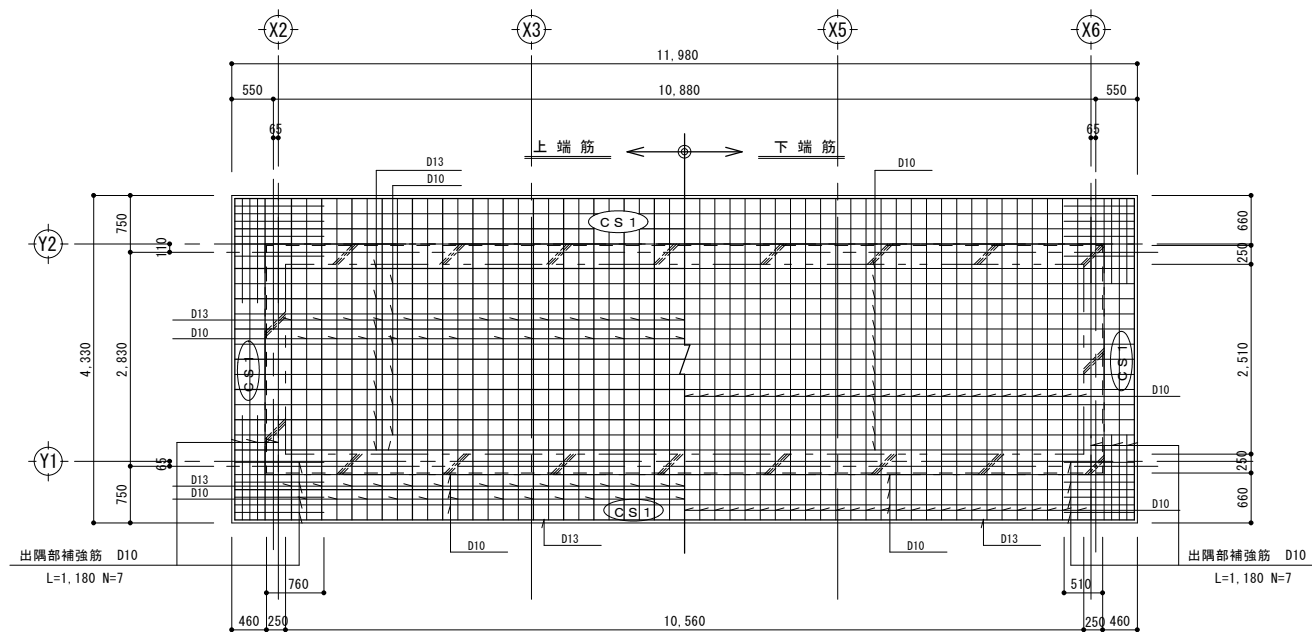
壁
(W8-4)



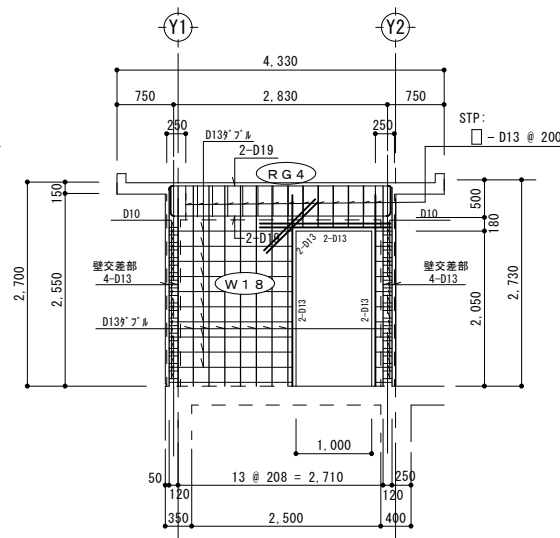
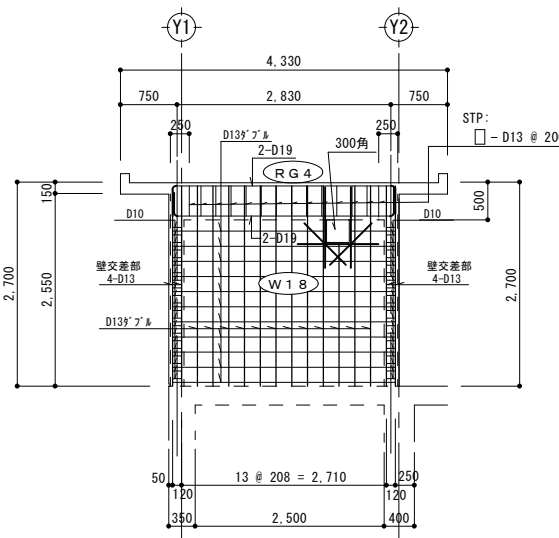
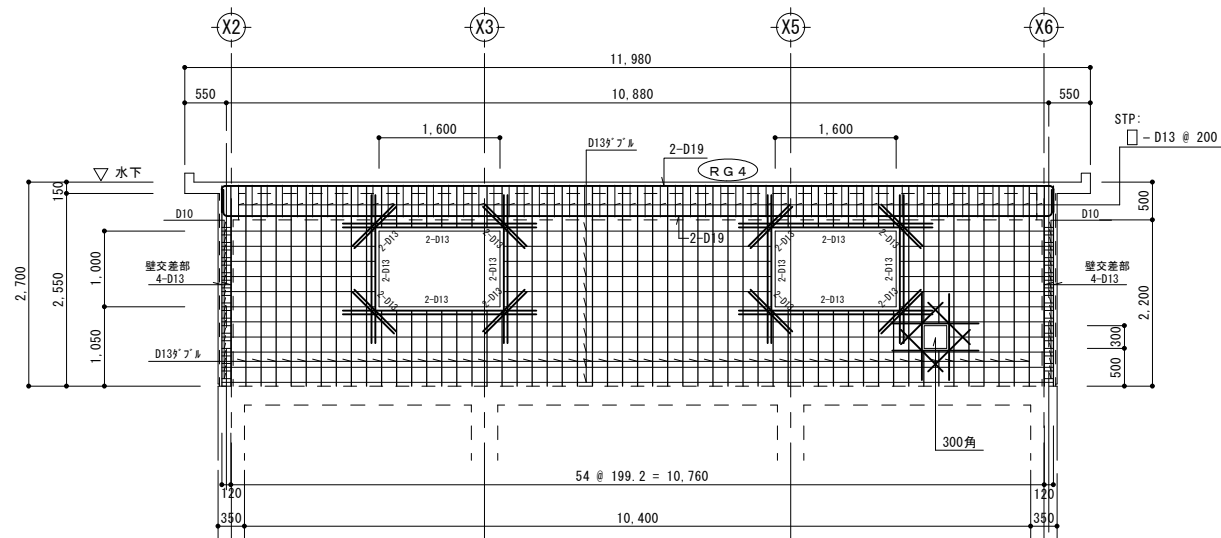
KEY PLAN

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	配筋図(10/11) S-1/50 (A1) S-1/100 (A3)
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 24 葉		

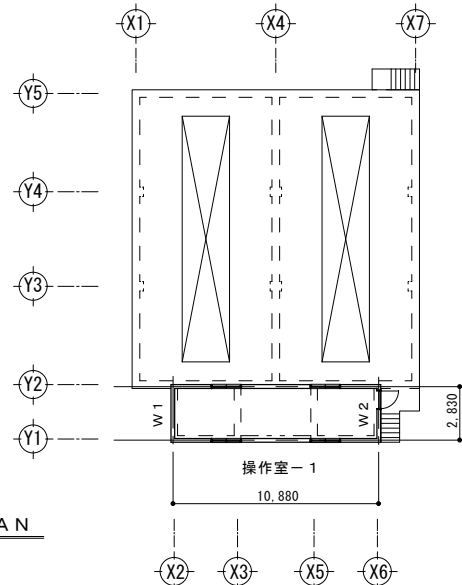
緩速ろ過池配筋図（10）



屋根配筋図 ※特記以外のスラブはS2とする



壁配筋図 ※特記以外の壁はW18とする
操作室-1



位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）緩速ろ過池		
測量年月		図面説明	配筋図（11/11） S-1/50 (A1) S-1/100 (A3)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 25 葉		